

消防年報



令和4年度 防衛省 特定防衛施設周辺整備調整交付金事業(救急1号車)

白老町消防本部

令和4年度版(令和5年刊行)

は し が き

- 1 この年報は、本町消防の業績、状況及び現勢を明らかにし、この結果を消防行政上、有効に活用する目的をもって編集した。
- 2 統計は、火災・救急等については令和4年12月31日、その他については令和5年4月1日をもって収録した。

令和5年4月

白老町消防本部

目 次

総 務 関 係	1 ~ 11
1 消 防 本 部 の 沿 革	
2 白 老 町 の 概 要	
3 消 防 組 織 と 現 有 力	
4 消 防 庁 舎 等 の 現 況	
5 消 防 予 算	
予 防 関 係	12 ~ 19
1 防 火 対 象 物 の 状 況	
2 建 築 同 意 設	
3 危 険 物 施 設	
4 火 災 予 防 災	
5 火 災	
警 防 関 係	20 ~ 25
1 出 動 状 況 (火 災 ・ 救 助 ・ 警 防 活 動)	
2 救 急 出 動	
3 消 防 団	
4 消 防 水 利 の 現 況	
機 械 ・ 通 信 設 備 関 係	26 ~ 29
1 現 有 消 防 車 両 一 覧	
2 特 殊 資 機 材 一 覧	
3 通 信 系 統	
4 無 線 電 話 配 置 状 況	

総務関係

1 消防本部の沿革

(1) 組織、装備、災害の記録

年 月 日	内 容
昭和 46	6. 1 白老町消防本部設置、本部に総務・予防・警防の3係を置く(職員定数18名)
	9. 6 無線局開局(基地局しらおいしょうぼうほんぶ)
	17 小型動力ポンプ付積載車、社台分団に配置
	26 台風29号による高波被害(虎杖浜防潮堤2カ所150m決壊)
47	4. 1 白老町消防署を設置、消防署に警備係を置く、職員定数28名に増員
	15 消防本部及び消防署設置政令指定(自治省告示第106号)
48	3. 9 小型動力ポンプ付積載車を竹浦分団に配置、全分団配車完了(白老・萩野・虎杖浜分団は消防ポンプ自動車配置済)
	30 救急車2B型1台寄贈、消防署に配置(救急1・日本自動車工業会)
48	4. 1 救急業務を開始
	6. 8 白老町消防団、北海道消防協会長より竿頭綬を受賞
	20 救急業務政令指定(自治省告示第119号)
49	9. 5 消防庁舎増改築工事着工
	3. 31 消防庁舎、鉄骨ブロック造2階建684.36㎡増改築完成
49	4. 1 消防・救急指令装置設置(基地局10Wしらおいしょうぼう)
50	11. 26 指令車購入、本部に配置(指令1)
52	2. 3 消防ポンプ自動車CDⅡ型1台購入、消防署に更新配置(消防4号車・防衛施設補助)
52	5. 9 字北吉原137番地より出火、4棟全焼
	6. 8 消防業務連絡車1台購入
	7. 28 水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈、消防署に更新配置(消防2・日本損害保険協会)
	12. 6 消防待機宿舎、コンクリートブロック造2階建1棟4戸完成(大町)
53	4. 1 救急業務の強化に伴い職員定数30名に増員
	6. 9 白老町消防団、北海道消防協会長より表彰旗を受賞
	11. 24 消防待機宿舎、コンクリートブロック造2階建1棟4戸完成(大町)

年 月 日	内 容
昭和 54	8. 28 消防団旗を更新購入
	10. 3 集中豪雨被害(床上浸水 5 戸、床下浸水 135 戸、土砂崩れ 15 ヲ所)
55	4. 1 西部出張所開設準備に伴い、職員定数 33 名に増員
	8. 31 集中豪雨被害(家屋全壊 1 戸、半壊 2 戸、床上浸水 98 戸、床下浸水 500 戸、土砂崩れ 1 ヲ所、崖崩れ 2 ヲ所)
	11. 5 西部出張所、鉄筋コンクリート平屋建 282 m ² 完成、業務開始 水槽付消防ポンプ自動車 1 台(消防 1)、職員 5 名配置 固定局 5W・移動局 1W・8 局開局
	30 耐震性防火水槽、40 m ³ 有蓋空地用、白老町総合体育館前に設置
56	1. 1 消防団副団長 1 名制を 2 名制に改組
	3. 23 消防ポンプ自動車 CD II 型 1 台購入、消防署に配置(消防 5・防衛施設補助)
56	4. 1 西部出張所に 2 名増員 7 名配置
	8. 21 台風による豪雨被害(家屋一部破損 6 戸、床上浸水 27 戸、床下浸水 180 戸)
	11. 20 西部出張所待機宿舎、木造防火サイディング平屋建 2 棟 4 戸完成(字虎杖浜)
	27 小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、萩野分団に更新配置(石油交付金)
57	4. 1 消防力増強のため職員定数 40 名に増員
	7. 1 胆振地方消防訓練大会を白老中学校グラウンドで開催
	8. 5 消防本部大型サイレン更新設置(出力 3.7Kw 防雪型)
	10 竹浦・萩野分団車庫増築
	12. 15 広報車 1 台寄贈(危険物安全協会)本部に配置
	24 小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、虎杖浜分団に更新配置(石油交付金) 指令車 1 台購入、本部に配置(指令 2・石油交付金) 指令 1、西部出張所に配置替え
58	7. 27 全道救助技術訓練指導会に苫小牧市消防本部の施設を借用して訓練し初出場(はしご登はん 2 名、ロープ登はん 1 名)
	8. 1 役場機構改革により部制導入、消防長が部長職となる
	11. 1 救急車 2B 型 1 台寄贈、西部出張所に配置(救急 2・榊川田グループ) 西部出張所で救急業務開始、4 名増員 11 名配置
	12. 14 道央自動車道救急業務開始、救急車 2B 型 1 台購入、消防署に配置(救急 1)

年	月	日	内 容
58	12.	26	小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、社台分団に更新配置 大型 10 t 水槽車 1 台購入、消防署に配置 (消防 6・石油交付金) 消防ポンプ自動車 1 台 (消防 4)、西部出張所に配置替え
59	7.	26	全国消防救助技術訓練指導会「ロープ登はん」部門で全道準優勝
	8.	24	全国消防救助技術大会「ロープ登はん」部門で入賞 (名古屋市開催)
60	3.	8	小型はしご車 1 台購入、消防署に配置 (消防 7・石油交付金)
60	6.	5	全分団に携帯無線機を配置
	8.	27	虎杖浜婦人会防火クラブに軽可搬ポンプ配置 (女性消防隊助成金)
61	1.	21	救助器具 (エンジン式油圧ポンプ・カッター・スプレッター・マット型空気ジャッキ・救命索発射銃) 購入、消防署指令 2 号車に積載 (石油交付金)
		30	小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、白老分団に更新配置 (石油交付金) 指令車 1 台購入、消防署に更新配置 (指令 1・石油交付金) 広報車 1 台購入、西部出張所に配置 (広報 1・石油交付金)
61	4.	1	16 ミリ映写機・ワードプロセッサ寄贈 (危険物安全協会 10 周年記念)
	12.	30	小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、竹浦分団に更新配置 (石油交付金)
62	1.	29	救急車 2B 型 1 台購入、消防署に更新配置 (救急 3・石油交付金)
		30	携帯無線機 2 台を消防署に配置 (石油交付金)
62	6.	5	防火広報車 1 台寄贈、消防本部に新規配置 (広報 2・日本防火協会)
	8.	18	水槽付ポンプ自動車 1 台寄贈、消防署に更新配置 (消防 1・日本損害保険協会) 西部出張所へ水槽付ポンプ自動車 1 台 (消防 2)、配置替え
	10.	1	ポルト保育園幼児消防クラブに日本防火協会より鼓笛隊セット交付
		26	集中豪雨被害 (床上浸水 81 戸、床下浸水 251 戸)
	12.	27	宇北吉原の作業場より出火、消火活動中の菟野分団班長 泉金次郎氏が身体の不調を訴え、帰宅後に急性心不全により死亡
63	2.	15	故 野分団部長 (死亡日昇格)・泉金次郎氏、公務災害として認定される
	3.	31	消防救急指令装置を更新設置 (石油交付金)
63	4.	5	故 泉金次郎氏の消防表彰式及び弔慰金等授与式を挙行
	5.	20	査察車 1 台寄贈、本部に配置 (査察 1・毛笠コンクリート(株))
	7.	13	全道救助技術訓練指導会に独自施設を作成して団体種目での出場 (ほふく救出 1 隊)
	10.	1	救急医療情報システムを設置

年 月 日	内 容
昭和 63	11. 24 低気圧による暴風雨被害(消破堤損壊 120m、漁具流出・損壊 11 件)
	12. 9 空気呼吸器 10 台・予備ボンベ 10 本・予備面体 10 個・携帯無線機 8 台・ホース 65 ミリ 30 本・ホース 50 ミリ 20 本購入(石油交付金)
平成元	4. 1 消防力増強のため職員定数 41 名に増員
	2 3. 1 防災無線を通信指令室に設置
	3 2. 8 空気呼吸器 18 台・予備ボンベ 18 本・セイバー5 個・ホース 65 ミリ 50 本・ホース 50 ミリ 30 本・防火衣 40 着購入(石油交付金)
	2. 13 北海道広域消防相互応援協定締結
	16 低気圧による高波被害(漁船 13 隻破損)
	3 5. 29 飛生で行方不明者捜索(消防職団員延べ 105 名・自衛隊員延べ 200 名・消防車両等延べ 17 台・ヘリコプター3 機)
	4 2. 1 緊急通報システム導入(42 世帯)
	26 水槽型消防車 1 台購入、西部出張所に更新配置(消防 4・石油交付金)
	4 4. 1 消防力増強のため職員定数 49 名に増員
	7. 24 全道消防救助技術訓練指導会「ほふく救出」部門で全道優勝
	8. 28 全国消防救助技術大会「ほふく救出」部門で入賞(千葉市開催)
	5 1. 15 釧路沖地震発生(白老町震度 4、水道管破裂 3 件・商品破損 53 件・教育施設 PC 破損 1 件)
	3. 12 査察車 1 台寄贈、本部に配置(査察 2・毛笠コンクリート株)
	13 水槽付ポンプ自動車 1 台購入、消防署に更新配置(消防 3・石油交付金)
	5 4. 1 水槽付ポンプ自動車 1 台(消防 1)、西部出張所に配置替え
7. 12 北海道南西沖地震発生(白老町震度 4、商品破損 1 件)	
23 全道消防救助技術訓練指導会に「引揚救助」初出場、同時に出場した「ほふく救出」部門で全道優勝	
31 温帯低気圧による豪雨被害(床上浸水 1 戸、床下浸水 2 戸、道路損壊 20 ヲ所)	
8. 20 全国消防救助技術大会「ほふく救出」部門で入賞(福岡市開催)	
11. 1 女性消防団員導入 5 名新規採用(団本部付)	
6 2. 15 白老町消防団が日本消防協会より竿頭綬を受賞	
28 救助工作車両積載器具一式・携帯無線機 4 台購入(石油交付金)	

年 月 日	内 容
平成 6	3. 28 無線サイレン自動吹鳴装置・虎杖浜地区サイレン 2 基を更新設置(防災まちづくり事業・出力 5.5Kw)
6	6. 1 女性消防団員 5 名増員、計 10 名とする(団本部付)
	9. 18 台風による高波被害(人的被害 2 件、住宅一部破損 8 件、河川道路被害 9 件)
7	3. 1 竹浦・社台地区サイレンを更新設置(防災まちづくり事業・出力 5.5Kw)
	24 救助工作車 1 台購入、消防署に配置(消防 8・石油交付金)
7	8. 29 社台婦人会防火クラブに軽可搬ポンプ配置(女性消防隊助成金)
8	3. 6 高規格救急車 1 台購入、消防署に更新配置(救急 1・石油交付金)
	27 萩野地区サイレンを新規設置(防災まちづくり事業・出力 2.2Kw)
8	4. 1 消防力増強のため職員定数 55 名に増員
	1 北海道消防防災ヘリコプター導入
	6. 7 ビデオプロジェクター 1 台寄贈(白老危険物安全協会 20 周年記念)
	7. 4 胆振地方消防訓練大会を 14 年ぶりに町民ふれあい広場で開催
	10. 1 白老町消防職員委員会が発足
9	3. 21 高規格救急車 1 台購入、西部出張所に更新配置(救急 2・石油交付金)
9	9. 1 水槽付ポンプ自動車 1 台寄贈、消防署に更新配置(消防 2・日本損害保険協会)
10	4. 17 救急救命士 1 名資格取得
	7. 31 役場機構改革により部制廃止、消防長を課長職に変更(階級は変更なし)
	11. 1 消防署救急担当発足(8 名)
	12. 28 消防本部サイレン塔建替え
11	2. 1 指揮車 1 台購入、消防署に配置(指揮 1・石油交付金)
	2. 10 ISO 準拠型対応防火衣上下型バンカーⅢ一部導入(石油交付金)
	3. 5 白老町消防本部及び白老町消防団が消防庁長官より竿頭綬を受賞
11	12. 7 ファイリングシステム導入
	15 萩野分団詰所、北吉原サイレン移転更新(産業再配置事業・出力 5.5Kw)
12	2. 18 多目的人員輸送車 1 台購入、消防署に配置(広報 2・石油交付金)
	西部出張所無線基地局・無線装置更新設置(石油交付金)
	防火衣上下型バンカーⅢ導入完了(石油交付金)

年 月 日	内 容
平成 12	3. 23 高規格救急自動車整備事業(高度救急用資器材) ・半自動式除細動器 ・気道確保資器材 ・静脈路確保のための輸液 ・心電図伝送受信装置
	27 救急救命士制度の運用開始
	31 有珠山が 23 年ぶりに噴火、北海道広域応援協定により消防隊・救急隊・指揮隊各 1 隊応援出動(延 39 日間、220 名)
12	4. 1 組織機構改革によりスタッフ制導入
	8. 21 朝霧区婦人会防火クラブ、全国婦人防火クラブ員救急講習モデルに決定、救急講習用訓練人形を日本防火協会より交付
	10. 1 登別市との応援協定改正、応援対象範囲を拡大し隣接地区への認知出動可能
	11 救急講習用訓練人形購入(民間防火組織等の防火・防災普及啓発推進事業)
	11. 7 須貝竹寿団長が纏・パソコンを寄贈(退団記念)
13	1. 24 西部出張所にホース昇降装置を設置(石油交付金)
	28 広報車 1 台購入、西部出張所に更新配置(広報 1・石油交付金)
	2. 8 分団用防火衣一式 63 着購入(石油交付金)
	3. 21 消防ポンプ自動車 1 台購入、消防署に更新配置(消防 5・産業再配置) 小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、萩野分団に更新配置(産業再配置)
14	1. 21 虎杖浜漁協所属の第七富栄丸が登別市・鷺別岬沖で転覆、消防団員 1 名を含む 3 名が行方不明
	3. 12 携帯用投光器購入(消防団員安全装備品助成金)
	31 小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、虎杖浜分団に更新配置、空気呼吸器 5 台購入(石油交付金)
15	3. 31 小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、社台分団に更新配置、空気呼吸器 5 台購入(石油交付金)
15	9. 29 十勝沖地震後苫小牧市出光興産(株)北海道製油所屋外貯蔵タンク火災が発生、北海道広域応援協定により消防隊 1 隊応援出動(延べ 5 日、24 名)
	12. 22 苫小牧市・屋外貯蔵タンク火災への応援出動に対し北海道知事より表彰状受賞
	26 空気呼吸器 14 台購入(石油交付金)
16	1. 5 苫小牧市・屋外貯蔵タンク火災への応援出動に対し消防庁長官より褒状受賞
	6 緊急通報システム機種更新、RTS-250R(受信機)
	9 白老消防創設 100 年記念式典挙行

年 月 日	内 容
平成 16	1. 26 火災原因調査車 1 台購入、本部に配置(原調 1・石油交付金)
	3. 4 白老町消防本部及び白老町消防団が消防庁長官より表彰旗を受賞
16	4. 1 消防組織法改正、緊急消防援助隊法制化
	8. 24 平成 15 年 9 月に発生した苫小牧市・屋外貯蔵タンク火災応援出動に対し消防庁長官から表彰状を受賞
	9. 8 台風 18 号による強風被害(人的被害 3 件、家屋損壊 34 件、街路樹倒木 2 件)
17	2. 10 救命胴衣 130 着購入、各分団に配置(消防団員安全装備品助成金)
	3. 2 高規格救急車 1 台購入、消防署に更新配置(救急 3・石油交付金)
	5. 31 携帯電話発信 119 番受信設備設置
18	2. 24 小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、竹浦分団に更新配置(石油交付金)
	3. 10 消防団員用防寒衣 120 着購入(消防団員安全装備品助成金)
	14 字石山に消防庁舎用敷地(防災拠点施設分含む)5,974.28 m ² を購入
	31 道見義正氏より指定寄付、10 万円相当の消防訓練用備品購入
18	4. 1 消防庁の基準に適合させるため、消防長の階級を司令長に変更
	5. 19 パソコン 1 台・プロジェクター 1 台寄贈(危険物安全協会 30 周年記念)
	6. 23 消防庁舎(防災拠点施設を含む)建設工事着工
	26 消防庁舎用敷地 224.8 m ² を追加購入、延べ 6,199.08 m ² となる
	9. 5 台風 12 号による高波被害(家屋損壊 3 件、漁船被害 10 件)
	10. 20 油圧式救助器具エンジンポンプ他更新
	12. 1 虎杖浜婦人防火クラブ軽可搬ポンプ更新、組立水槽及び操法用標的購入(女性消防隊助成金)
19	1. 1 緊急消防援助隊に登録(消火小隊・消防 2)
	2. 23 小型動力ポンプ付積載車 1 台購入、白老分団に更新配置(石油交付金)
	消防用ホース、空気呼吸器購入(石油交付金)
	防災広報車 1 台寄贈、本部に更新配置(査察車・日本消防協会)
	3. 24 樽前山火山対策防災拠点施設(北海道開発局室蘭開発建設部)併設消防庁舎竣工、鉄筋コンクリート造地上 2 階、地下 1 階建、延べ 2,715.5 m ² (消防庁舎床面積 1,634.5 m ²)
19	4. 19 新庁舎外構工事着工
	23 新庁舎前国道 36 号線片側 2 車線化の工事着工
	8. 27 消防団現地教育訓練として消防団員等公務災害補償等共済基金事業「消防団員安全管理セミナー」を実施、胆振管内の職団員 100 名が受講

年 月 日	内 容
平成 19	9. 30 通信指令装置更新、新庁舎に配置(石油交付金)
	10. 1 新庁舎開庁式挙行、運用開始
	1 旧本部庁舎を白老分団詰所及び役場倉庫に転用し小型ポンプ付積載車 2 台(団本部・白老分団)配置、サイレン自動吹鳴装置設置
20	11. 1 地震速報通知システム運用開始
	4. 1 町定員管理計画により、職員定数を 50 名に縮小
	1 男性消防団員、新活動服導入
	1 消防組織法改正に伴い北海道が「消防広域化推進計画」策定
	6. 2 新携帯 e-モバイル社、119 番受信運用開始
	11. 28 東胆振広域圏振興協議会において「消防広域化検討会」設置を承認
	12. 1 北吉原曙婦人防火クラブに軽可搬ポンプ配置、AED・AED トレーナー購入(女性消防隊交付金)
	15 旧本部庁舎を改修し白老分団詰所を設置、団本部を新庁舎へ移転(団本部車を消防本部へ配置替え)
	22 マット型空気ジャッキ更新、高規格救急車購入のため基金造成(石油交付金)
	21
1 女性消防団員、制服更新	
6. 30 都市型救助資機材購入、消防署に配置	
8. 17 元消防司令・山本 弘氏から職員福利厚生事業として液晶テレビ 1 台寄贈	
9. 8 消防 1 号車を訓練用車両として北海道消防学校に無償譲渡	
10. 1 白老ライオンズクラブ 45 周年記念事業として防火指導用軽自動車 1 台寄贈本部に配置(査察 2)	
30 現場活動警報器・活線接近警報器、各 10 個購入(消防団員安全装備品助成金)	
12. 6 低気圧による暴風被害(家屋損壊 10 件、電柱倒壊 1 件)	
11 松田 喜代一団長より指定寄附、70 万円相当の消防・救急活動用備品購入	
25 本町婦人防火クラブに軽可搬ポンプ配置、煙体験ハウス・スモークマシン購入(女性消防隊交付金)	
22	2. 5 消防団救助資機材一式、団本部に配置(消防庁貸与品)
	22 高度救命措置シュミレーター、消防署に配置(消防庁貸与品)
	26 救急隊員訓練資機材(自己注射が可能なアドレナリン製剤)、消防署に配置(消防庁無償譲与品)
	28 チリ地震による津波警報発令に伴う特別警戒体制、身体障がい者避難支援活動実施(4 世帯)

年 月 日	内 容
平成 22	3. 10 (財)日本防火・危機管理促進協会より国民保護訓練用資機材として、サイレン付きメガホン 2 台無償配布
	31 古俣 行雄氏より指定寄附、20 万円相当の消防活動用備品購入
22	4. 1 機構改革により、西部出張所に管理職(主幹)配置
	8. 26 小規模福祉施設に対し火災警報器無償譲与(消防庁事業)に伴う防火講習会開催
	9. 30 消防団現地教育訓練として、消防団公務災害補償等共済基金事業「S-KYT(消防団危険予知訓練)研修」実施、胆振管内の職団員 70 名が受講
	12. 22 菽野石山婦人防火クラブに軽可搬ポンプ配置、視聴覚資器材購入(女性消防隊交付金)
23	3. 11 東北地方太平洋沖地震発生(東日本大震災)、1.71mの津波を観測、港で漁業被害等発生、避難広報・白老港にて潮位観測実施
	15 東日本大震災姉妹都市災害支援隊として 1 名、他役場職員 5 名、民間業者 2 名、消防広報車他車両 2 台を仙台市に派遣、給水支援活動等実施(11 日間)
	16 高規格救急車 1 台購入、消防署に更新配置(救急 1・石油交付金)
	18 消防団公務災害補償等基金より、ヘッドライト 40 個・ケブラー手袋 40 双無償配布
	25 東日本大震災第 5 次緊急消防援助隊北海道隊として、支援隊 2 名、消防広報車 1 台を宮城県石巻市に派遣(6 日間)
	28 旧救急 1 を東胆振 DMAT 用救急車として苫小牧市王子総合病院に無償譲渡
	29 NTT ひかり回線供用開始
	31 簡易型携帯・IP 電話位置情報通知システム新規導入(石油交付金)
23	4. 1 携帯・IP 電話位置情報通知システム運用開始
	1 緊急消防援助隊に追加登録(後方支援隊・広報 2)
	1 緊急消防援助隊用放射線防護資機材として、個人線量計 5 台・ガンマ線及びエックス線用線量率計 1 台を配置(消防庁貸与品)
	5 東日本大震災第 5 次緊急消防援助隊北海道隊として、消火隊 5 名・水槽付ポンプ車 1 台を宮城県石巻市に派遣(7 日間)
	17 東日本大震災第 11 次緊急消防援助隊北海道隊として、支援隊 2 名・広報車 1 台を宮城県石巻市に派遣(7 日間)
	5. 13 佐藤 俊雄氏より指定寄附、50 万円相当の消防活動用備品購入
	9. 11 天皇陛下北海道行幸による御来町に伴い、特別警戒を実施(指揮隊・救急隊・消防隊を白老地区に移動配備)
	10. 1 虎杖小学校教員住宅を虎杖浜分団詰所として借用(ブロック平屋建て延べ 60.48 m ² 敷地 300 m ²)

年 月 日	内 容
平成 23	11. 9 東日本大震災緊急消防援助隊の活動に対して、総務大臣より表彰状を受賞
	25 東町第 2 町内会婦人会防火クラブに軽可搬ポンプ・組立水槽他操法訓練資機材購入 (女性消防隊助成金)
24	2. 1 国の第 3 次補正による消防防災通信基盤事業費補助事業により、消防救急デジタル 無線設備整備事業の採択を受ける(平成 24 年度事業に繰越)
24	4. 1 緊急消防援助隊に追加登録(救急小隊・救急 3)
	28 東胆振広域圏振興協議会で、平成 20 年から協議を継続していた東胆振 3 消防本部 の広域化を断念
	5. 13 白老危険物安全協会会長事業所の日本製紙(株)北海道工場白老事業所が北海道危険 物安全協会推薦で、防火功勞により消防庁長官表彰を受ける
	6. 1 消防救急デジタル無線施設整備工事着工
	27 胆振地方消防訓練大会を町民ふれあい広場で 16 年ぶりに開催
	9. 1 パソコンから携帯電話受信メールによる職員非常召集システム運用開始
	11. 27 低気圧による暴風雪により西胆振地域に広域停電発生(通電火災警戒実施)
	12. 7 低気圧により町内広範囲に屋根の飛散等暴風被害発生(危険排除作業実施)
25	1. 18 白老港港湾道路改修工事に伴い、石山地区に 40 t 耐震型防火水槽移転設置
	2. 4 消防救急デジタル無線施設整備工事完了
	3. 1 デジタル統制波運用開始(アナログ波と併用)
25	4. 1 役場機構改革により部制廃止、消防長を課長職に変更
	7. 19 北海道消防操法訓練大会に白老分団出場し入賞
	9. 1 女性消防団員、活動服更新
	2 北海道防災総合訓練図上訓練(白老町被害想定・室蘭市開催)参加
	26 消防団現地教育訓練として、消防団公務災害補償等共済基金事業「消防団員健康管 理セミナー」を実施、胆振管内の職団員 80 名が受講
	10. 12 緊急消防援助隊北海道東北ブロック訓練(苫小牧市開催)に業務要員 3 名派遣
	29 北海道防災総合訓練実動訓練を胆振管内モデル地区として白老町で開催、避難訓練 に町民約 2,800 人が参加、住民避難誘導・退避訓練及び自衛隊・伊達日赤病院と協力 し救出救助応急救護所設定訓練実施(職団員 50 名参加)
	11. 3 町定例表彰式において、婦人防火クラブ連合会が防災貢献表彰を受ける
	12. 25 職員用防火服一式更新、総務省消防庁通知「防火服のガイドライン」適合品 47 着(特 定防衛施設周辺整備調整交付金)
26	4. 1 機構改革により、本部消防管理課を総務 G・予防 G・警防 G・救急 G にグループ化

年 月 日	内 容	
平成 26	4. 1 平成 23 年 10 月から虎杖浜分団詰所として借用していた教員住宅を、教育財産から移管し消防施設として管理開始	
	7. 8 石狩地方南部を震源とする M5.6 の直下型地震により当町で過去最大の震度 5 弱を記録(軽症者 2 名、公共施設での被害発生)	
	9. 10 低気圧による記録的大雨により豪雨被害、2 地区に避難勧告発令(81 名避難)	
	12 10 日に引き続き、低気圧による大雨に伴う土砂災害危険により、全町に避難勧告発令(床上浸水 1 件、床下浸水 4 件、道路決壊、農業・商業被害発生)	
	10. 1 現場対応型防寒服導入、全職員に貸与	
	11. 3 低気圧による暴風で、電柱 1 本倒壊し 250 世帯停電発生	
	4 前日に引き続き、低気圧による暴風(屋根等損壊 2 件発生)	
	12. 1 高規格救急自動車 1 台購入、消防署に更新配置(救急 2・特定防衛施設周辺整備調整交付金)	
	1 現場活動用省電力トランシーバー 60 台購入、取扱訓練実施後、消防団各分団に配置(消防団安全装備品助成金)	
	1 当町消防職員の日頃の安全運転励行の功績により、平成 26 年度札幌方面安全運転管理者協会長・優良安全運転管理事業所表彰を受賞	
	12 インフルエンザ集団感染(4 名)及び感染疑い(3 名)発生に伴い、BCP(業務継続計画)による特別勤務編成発動(~18 日)	
	16 低気圧による高波により、胆振海岸に水防警報発令(屋根損壊 5 件発生)	
	17 前日に引き続き、低気圧による暴風被害(屋根損壊 1 件発生)	
	18 低気圧による消防施設の被害調査実施、虎杖浜分団車庫屋根・外壁剥離等及び社台分団詰所外壁剥離の被害発見	
	27	1. 1 救急用高性能感染防止衣導入、全救急隊員に貸与
		1 救急 2 更新に伴い、救急 1 を西部出張所に配置換え
		3. 1 今年度導入自動心臓マッサージ器を西部出張所配置の救急 1 に積載、運用開始
	27	4. 1 機構改革により本部消防管理課を消防課(総務 G・警防 G・救急 G)と予防課(予防 G)に分離
1 消防職・団員の制服用ネクタイを新基準に変更		
1 各分団に配布した省電力トランシーバーの現場運用開始		
6. 1 緊急ネットワークシステム Em-Net 運用開始		
7. 1 消防団盛夏衣上衣、新基準に更新		
8. 1 消防救急デジタル無線設備整備事業(活動波整備)に対して、平成 27 年度無線システム普及支援事業費補助金の採択を受ける		

年 月 日	内 容
平成 27	9. 1 町消防防災 GIS システム運用開始
	10 台風接近による暴風により胆振海岸水防警報発令(屋根損壊被害発生)
	11 前日に引き続き、台風接近の波浪に伴う越波災害危険により、竹浦・虎杖浜地区一部に避難勧告発令(3 避難所 20 名避難、家屋等 8 件越波被害発生)
	18 17日に発生したチリ沖地震(M8.2)による津波注意報発令
10.	8 台風 23 号の暴風により、倒木被害及び屋根損壊発生
	13 突風による倒木、住宅損壊被害 1 件発生
12.	25 大型水槽車 1 台購入、消防署に更新配置(消防 6・石油交付金)
28	1. 14 浦河沖地震のため、地域防災計画による連絡本部設置
	19 低気圧により、胆振海岸水防警報発令、町災害対策本部設置(越波により家屋 5 件、水産加工場 3 件、造船工場 1 件で損壊等被害発生、高波により白老港内係留漁船接触による漁船被害発生)
	2. 29 低気圧による暴風雪により、胆振海岸水防警報発令(家屋 3 件、工場 1 件で屋根飛散被害発生)
	3. 22 空気呼吸器(ドレーゲル)5 台・予備ポンペ 15 本購入、消防署に更新配置(石油交付金)
	28 消防救急無線デジタル化工事完了、全波(統制波 3・主運用波 7・活動波 2) デジタル運用開始
	31 白老地区老朽化消火栓 16 基更新(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
28	6. 25 大雨洪水警報発令に伴う土砂災害情報により、町内の土砂災害危険地域に避難勧告発令(白老地区住民 3 名避難、石山地区等に床下浸水 2 件、町内各所に道路冠水被害 6 件、河川・道路損壊 2 件発生)
	7. 16 全道消防救助技術訓練指導会に 20 年ぶりに参加、「ロープ応用登はん」に 2 隊・4 名が出演し、1 隊入隊
	8. 17 台風 7 号北海道上陸による大雨・洪水・波浪警報発令に伴い、町内の土砂災害土砂災害危険地区に避難勧告発令(道路冠水被害発生)
	8. 30 台風 10 号接近による暴風・波浪・大雨警報発令に伴い、町内の海岸越波危険地区に避難勧告及び胆振海岸水防警報発令(町内各避難所に 13 世帯、22 名が避難、暴風・越波による住居家屋 5 件被害、床上浸水 2 件、床下浸水 1 件、農業被害等 6 件、越波による国道通行止め 1 件発生)
	9. 28 防水型デジタル一眼レフカメラ・火災予防運動啓発用反射横断幕の寄贈(白老危険物安全協会 40 周年記念)
10.	6 消防団現地教育訓練として、消防団公務災害補償等基金事業「安全管理セミナー」実施、胆振管内の職団員 86 名が受講

年 月 日	内 容
平成 28	11. 3 町定例表彰式において「防災功労」として危険物安全協会会員 4 事業所が町長表彰を受ける
	12. 23 町内で発生した高病原性鳥インフルエンザ陽性反応確認に伴い、町対策本部の要請により消防隊 1 隊による警戒パトロール実施(~25 日、12 月 29 日~1 月 3 日まで)
29	2. 2 白老・石山・萩野・北吉原地区の老朽化消火栓 40 基更新
	3 全地区の消防防災用動力サイレン 6 基更新(全 5.5W)
	3. 22 空気呼吸器(ドレーゲル)本体 5 セット・軽量ボンベ 10 本・50 ミリホース 20 本購入、消防署に更新配置(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
	31 消防広域化の協議機関であった東胆振広域圏振興協議会が解散
29	4. 1 緊急通報システム更新、直通方式からコールセンター方式に変更して運用開始
	8. 29 北朝鮮弾道ミサイル北海道上空通過に伴う警戒体制
	9. 15 2 回目の北朝鮮弾道ミサイル北海道上空通過に伴う警戒体制
	15 婦人防火クラブ連合会に救急用訓練人形を日本防火協会・防災協会から交付、町内 3 会場で婦人対象の普通救命講習会を開催 100 人参加
	18 台風 18 号通過により大雨・洪水・暴風・波浪警報発令、土砂災害警戒情報発表、町内の土砂災害危険地区に避難勧告発令、敷生川氾濫危険による避難勧告発令(萩野地区住民 28 名、竹浦地区住民 6 名、虎杖浜地区住民 1 名が避難) 国道 36 号線竹浦橋にたわみが生じたため通行止めとなり迂回措置実施 低気圧による暴風被害家屋 3 件、白老地区停電、道路冠水被害 3 ヲ所発生
	10. 16 一般社団法人北海道消防設備協会苫小牧・室蘭支部より訓練用消火器 2 本、標的 1 セット寄贈を受ける(3 ヲ年で消火器 7 本・標的 6 セット)
	11. 3 町定例表彰式において「防災功労」として危険物安全協会会員 2 事業所が町長表彰を受ける
	27 携帯電話 119 番受信設備を IP 電話受信併用方式に変更して更新(簡易型位置情報システムと連動)
	12. 1 消防団用救助資器材等一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED 現場照明・携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット 4 組)購入、白老分団に配置(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
	12. 25 低気圧接近による暴風警報発令(家屋被害 9 件発生)
30	1. 16 消防庁違反是正アドバイザー派遣事業により、札幌市消防局から講師を招き「違反是正研修会」開催、当町職員のほか胆振管内消防本部に案内(53 名参加)
	2. 28 白老地区の老朽化消火栓 5 基更新
	3. 1 低気圧による暴風・波浪警報及び胆振海岸水防警報発令(看板飛散被害発生)

年 月 日	内 容
平成 30	3. 27 空気呼吸器(ドレーゲル)本体 5 セット・軽量ポンベ 10 本・消防用ホース 65 ミリ・50 ミリ各 20 本購入、消防署に配置(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
30	4. 1 消防団員年額報酬を 24 年ぶり増額改正
	1 「救急ボイストラ(多言語音声翻訳アプリ)」を導入するため、スマートフォンに変更
	1 救急統計システム「ベストル 119」導入
	12 一般社団法人北海道消防設備協会苫小牧・室蘭支部と「火災現場における使用消火器の消火薬剤無償詰替」に関する協定を締結
	6. 1 119 番通報時の外国語対応のため「どこでも☆通訳(通話を交えた 3 者間同時通話装置)」を導入
	30 象徴空間慰霊施設敷地内に 40 t 耐震型防火水槽設置
	7. 4 胆振地方消防訓練大会(苫小牧市開催)小型ポンプ操法の部において、12 年ぶりに上位入賞(準優勝・虎杖浜分団)
	9. 4 台風 21 号通過に伴う大雨・洪水・暴風警報発令(暴風被害発生) 白老地区住民 6 名、萩野地区住民 14 名、竹浦地区住民 6 名、虎杖浜地区住民 1 名避難、屋根飛散等により家屋被害 5 件、倒木被害 53 件、及び町内各地区に停電発生(消防本部庁舎は非常用発電機にて運用)
	6 胆振東部で震度 7 の地震発生(当町震度 5 弱)北電厚真火力発電所が被災して北海道全域に停電発生(ガス漏れ警戒 3 件、灯油漏れ警戒 2 件、自火報発報 3 件、救急出動 1 件)、停電関連活動として住民安否確認 1 件実施、3 施設に給水対応、町内全体で公共施設 3 施設、家屋 2 件、少量危険物貯蔵所 2 件被害発生、危険物施設関係で地下タンク貯蔵所 2 ヲ所で異常が確認され、使用停止命令を発令して点検を指導他市町村への危険物緊急運搬のための仮取扱承認申請 2 件を承認
	6 北海道広域消防相互応援協定に基づき、消防隊 1 隊 5 名を 3 日間にわたり厚真町に派遣、土砂崩れ現場にて救助活動に従事、また、東胆振広域応援協定に基づく行政応援のための人員搬送業務に従事
	12 北海道広域消防相互応援協定により道南ブロック消防本部にて厚真町に指揮支援隊 1 隊、消防隊 1 隊、救急隊 1 隊を警戒配備、14 日から当町消防隊 4 名(9 月 30 日まで延べ 7 日間)、救急隊 3 名(10 月 5 日 1 日間)を派遣(道南ブロックとしては 10 月 12 日まで)
	10. 1 指定寄付により、現場活動用サーモグラフィーカメラ 1 台・原因調査用一眼レフカメラレンズ・防滴ストロボ購入
	11. 3 町定例表彰について「防災功労」として危険物安全協会会員 3 事業所が町長表彰を受ける

年 月 日	内 容
平成 30	12. 10 指定寄付により、通信指令室情報液晶モニター(49 インチ 1 台)・監視カメラ用液晶モニター(24 インチ 2 台)購入
	12. 20 前団長 松田 喜代一氏より、展示用纏 1 基・行事用テント 1 張寄贈
	25 消防団現場活動用資器材一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED 現場照明・携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット 4 組)購入、萩野分団に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)
31	2. 15 高規格救急車 1 台購入、本署に更新配置(救急 3・特定防衛施設周辺整備交付金)、救急 3 更新に伴い、救急 2 を西部出張所に配置換え
	3. 12 指定寄付により、災害用ワンタッチテント 1 張購入
	18 胆振東部地震における消防応援活動に対し、北海道知事を受賞
	3. 20 老朽化消火栓社台地区 2 基更新(国道拡幅関連)、白老地区 1 基更新・1 基新設(象徴空間関連)、石山地区 1 基更新
	26 消防団現場活動用資器材一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED 現場照明・携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット 4 組)購入、竹浦分団に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)
	3. 29 消防用ホース 65 ミリ・50 ミリ各 20 本・救命索発射銃・空気式救助マット・LED バルーン投光器・発電機付投光器購入、消防署に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)
31	4. 1 消防団員の費用弁償の一部を 25 年ぶりに増額改正
	1 職員定数を 23 年ぶりに 55 人に増員改正、機構改革により消防署の当直に課長職(署参事)2 名配置、初の女性消防士 1 名採用(第 144 期初任教育課程入校)
	1 役場総務課危機管理室に 1 名派遣(併任発令)
令和元	8. 17 台風 10 号から変わった低気圧の通過に伴い、強風被害発生(白老地区住民 7 名、萩野地区住民 1 名、北吉原地区住民 3 名が自主避難、屋根飛散等による被害、倒木被害及び町内竹浦地区の一部に停電発生)
	21 一般社団法人北海道消防設備協会苫小牧・室蘭支部より訓練用水消火器 2 本・PR 用ボールペンの寄贈を受ける
	9. 26 消防団現地教育訓練として、消防団員等公務災害補償等共済基金事業「消防団員健康づくりセミナー」を実施、胆振管内の職団員 75 名が受講
	10. 1 現場指揮活動要綱制定、指揮隊運用開始
	24 消防庁女性活躍推進アドバイザー派遣事業により、札幌市消防局から講師を招き「女性活躍推進研修」開催、当町職員 44 名のほか西胆振行政組合から 1 名出席
	26 台風 21 号から変わった低気圧による高波により、胆振海岸水防警報発令
	11. 15 町定例表彰式において「防災功労」として危険物安全協会会員 2 事業所が町長表彰を受ける

年 月 日	内 容
令和 2	1. 1 救急出動件数が初めて 1,000 件突破(令和元年 1,024 件、搬送人員 963 人)
	30 低気圧による高波により、胆振海岸水防警報発令
	2. 23 胆振管内の新型コロナウイルス感染発生に伴い、町に「新型コロナウイルス感染危機管理対策本部」設置
	25 道内の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、消防学校第 145 期初任教育が期間前に修了し入校中の職員 2 名が帰町
	28 新型コロナウイルス感染拡大に備えて、北海道が「緊急非常事態宣言」を発表
	3. 2 新型コロナウイルス感染疑似患者を搬送した救急隊員 3 名に自宅待機要請(未感染のため 2 日で解除)
	15 老朽化消火栓社台地区 7 基移設更新(国道拡幅関連)、白老地区 2 基新設・2 基移設更新(ウポポイ・駅北関連)、防火水槽社台地区 1 基マンホール嵩上げ(国道拡幅関連)
	3. 26 消防用ホース 65 ミリ・50 ミリ各 20 本・高性能トランシーバー4 台・ガンタイプノズル 2 本・簡易ポンププロポーションナー・フォームガン・ホースバック購入、消防署に配置(特定防衛施設周辺整備交付金)
	国が「新型コロナウイルス感染症対策本部」設置
	30 消防団現場活動用資器材一式(手動式油圧救助器具・エンジンカッター・チェーンソー・簡易破壊器具・発動発電機・LED 現場照明・2 携帯投光器・ハンドマイク・防火衣セット 4 組)購入、虎杖浜分団・社台分団に配置し全分団配置完了(特定防衛施設周辺整備交付金)
	2
16 緊急事態宣言を全国に拡大(北海道を特定警戒都道県に指定)	
6. 19 新型コロナウイルス感染症対策として、感染防護具及び消毒用品(感染防止衣 N95 マスク・ゴーグル・バクテリサイド消毒器・次亜塩素酸ナトリウム等)を整備(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金)	
7. 21 ウポポイ(民族共生象徴空間)がオープン、主要施設として、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設を整備	
8. 1 音声による 119 番通報が困難な聴覚・言語機能障害者が円滑に消防機関へ通報することが可能となる「NET119 緊急通報システム」を整備	
11. 3 町定例表彰において「消防功労」として危険物安全協会会員 2 事業所及び虎杖浜婦人会防火クラブが町長表彰を受ける	
17 一般社団法人北海道消防設備協会苫小牧・室蘭支部より訓練用水消火器 3 本・PR 用ボールペンの寄贈を受ける	

年 月 日	内 容	
令和 3	1. 7 国が1都3県に新型コロナウイルス対策特措法に基づく「緊急事態宣言」	
	11 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「令和3年白老町消防出初式」中止	
	2. 25 虎杖浜分団車庫を建て替え(特定防衛施設周辺整備調整交付金)	
	3. 16 白老港で1月に発生した自動車の海中転落事故で人命救助にあたった北興工業(株)社員5名が白老町消防表彰(町長感謝状)を受ける	
	18 水槽付ポンプ車1台購入、消防署に更新配置(消防1・石油交付金)	
	26 消防用ホース65ミリ・50ミリ各20本・油圧救助資機材一式・フルハーネス・投光器トランシーバーを購入し消防署に配置(特定防衛施設周辺整備調整交付金)	
	3	5. 14 国が緊急事態宣言の対象地域に北海道を追加(5月16日～6月21日)
	8. 2 救急搬送時の感染症感染防止対策としてポータブルアイソレータ―配備(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金)	
	8. 25 国が緊急事態宣言の対象地域に北海道を追加(8月27日～9月12日)	
	8. 31 女性防火クラブ消火訓練用資機材(消火体験装置)購入(コミュニティ助成事業)	
10. 15 旧虎杖浜分団車庫解体		
11. 30 消火栓移設工事(竹浦地区1基・虎杖浜地区1基移設)		
12. 17 老朽化消火栓更新工事(菟野地区2基更新)		
令和 4	1. 21 感染症予防対策として高性能感染防止衣53着購入(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金)	
	1. 26 感染症患者移送対策として感染症患者等移送車両(支援1)を配備(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金)	
	2. 7 位置情報通知用IP-VPN回線(B面回線)をメタル回線サービス提供終了に伴いデジタル回線に切り替え	
	2. 25 一般社団法人北海道消防設備協会苫小牧・室蘭支部より訓練用水消火器3本・PR用ボールペンの寄贈を受ける	
令和 4	4. 1 非常勤消防団員の報酬等の基準(令和3年4月13日付消防庁長官通知)に基づき消防団員の処遇改善を目的とした年報酬及び消防団員出動報酬の支給額を改正	
	4. 16 町内の養鶏場で鳥インフルエンザが発生(約52万羽を殺処分実施)	
令和 5	1. 1 救急出動件数が最高件数を記録(令和4年1,131件、搬送人員1,014人)	
	3. 14 高規格救急車1台購入、本署に更新配置(救急1・特定防衛施設周辺整備調整交付金事業)、救急1更新に伴い、救急3を西部出張所に配置換え	
	3. 14 自動心臓マッサージシステム新規購入(特定防衛施設周辺整備調整交付金事業)	
	3. 27 エアマット・救助用サポート器具・消防団防火衣を新規購入(特定防衛施設周辺整備調整交付金事業)	

歴代消防長・消防署長

消 防 長

	氏 名	在 任 期 間	備 考
初 代	長 井 忠 典	自 昭和46年 6月 1日 至 昭和46年 7月16日	助役・事務取扱
2 代	佐々木 時 美	自 昭和46年 7月17日 至 昭和47年 8月31日	
3 代	松 田 賢 吾	自 昭和47年 9月 1日 至 昭和54年 4月28日	
4 代	金 谷 忠 彦	自 昭和54年 6月 1日 至 平成 3年 3月31日	
5 代	作 田 利 昭	自 平成 3年 4月 1日 至 平成 3年 6月30日	助役・事務取扱
6 代	青 山 照 躬	自 平成 3年 7月 1日 至 平成 6年 3月31日	
7 代	佐々木 芳 孝	自 平成 6年 4月 1日 至 平成10年 3月31日	
8 代	高 田 和 幸	自 平成10年 4月 1日 至 平成16年 2月29日	
9 代	前 田 登志和	自 平成16年 3月 1日 至 平成26年 3月31日	
10 代	中 村 諭	自 平成26年 4月 1日 至 平成29年 3月31日	
11 代	越 前 寿	自 平成29年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日	
12 代	笠 原 勝 司	自 令和 2年 4月 1日 至 令和 3年 3月31日	
13 代	早 弓 格	自 令和 3年 4月 1日 至 令和 4年 3月31日	
14 代	後 藤 悟	自 令和 4年 4月 1日	

消 防 署 長

	氏 名	在 任 期 間	備 考
初 代	佐々木 時 美	自 昭和47年 4月 1日 至 昭和47年 6月30日	消防長・事務取扱
2 代	松 田 賢 吾	自 昭和47年 7月 1日 至 昭和54年 4月28日	消防長・事務取扱
3 代	金 谷 忠 彦	自 昭和54年 6月 1日 至 昭和60年12月31日	消防長・事務取扱
4 代	高 田 和 幸	自 昭和61年 1月 1日 至 平成13年 3月31日	消防長・事務取扱
5 代	前 田 登志和	自 平成13年 4月 1日 至 平成16年 2月29日	
6 代	鎌 田 正 平	自 平成16年 3月 1日 至 平成20年 3月31日	
7 代	中 村 諭	自 平成20年 4月 1日 至 平成26年 3月31日	
8 代	越 前 寿	自 平成26年 4月 1日 至 平成29年 3月31日	
9 代	渡 辺 一 雄	自 平成29年 4月 1日 至 平成31年 3月31日	
10 代	笠 原 勝 司	自 平成31年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日	
11 代	早 弓 格	自 令和 2年 4月 1日 至 令和 3年 3月31日	
12 代	後 藤 悟	自 令和 3年 4月 1日 至 令和 4年 3月31日	
13 代	本 間 佳 令	自 令和 4年 4月 1日	

歴代消防団長

消防団長

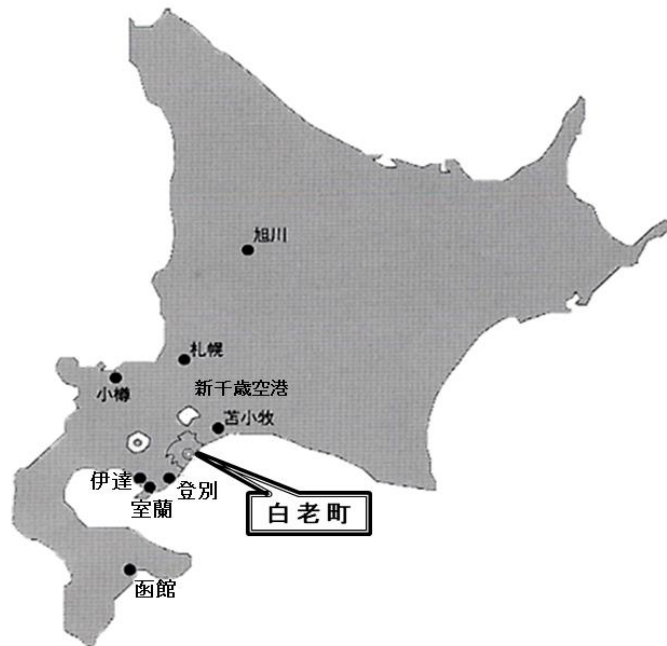
	氏名	在任期間		備考
初代	金田光蔵	自昭和22年8月31日	至昭和23年3月8日	
2代	久保金次	自昭和23年5月1日	至昭和30年9月20日	
3代	本間松吉	自昭和31年5月1日	至昭和51年12月31日	
4代	町田俊光	自昭和52年1月1日	至平成4年12月31日	
5代	須貝竹寿	自平成5年1月1日	至平成12年12月31日	
6代	木下助五郎	自平成13年1月1日	至平成20年3月31日	
7代	松田喜代一	自平成20年4月1日	至平成30年3月31日	
8代	鈴木靖男	自平成30年4月1日	至令和4年3月31日	
9代	本間孝一	自令和4年4月1日		

消防協力団体設立状況

名称	設立年月日	クラブ員数
幼児消防クラブ		
緑丘保育園幼児消防クラブ	昭和59年7月1日	41名
小鳩保育園幼児消防クラブ	平成5年5月1日	45名
はまなす保育園幼児消防クラブ	平成5年5月1日	32名
海の子保育園幼児消防クラブ	平成5年5月1日	26名
さくら幼稚園幼児消防クラブ	平成27年4月1日	55名
女性防火クラブ		
虎杖浜婦人会防火クラブ	昭和55年4月3日	47名
萩野朝霧区婦人会防火クラブ	昭和55年4月23日	110名
萩野石山婦人会防火クラブ	昭和55年5月1日	79名
北吉原曙区婦人会防火クラブ	昭和55年10月1日	4名
東町第二町内会婦人防火クラブ	平成5年4月1日	104名
本町婦人会防火クラブ	平成5年5月1日	52名
栄町第1町内会女性防火クラブ	平成28年2月1日	16名
栄町第2町内会女性防火クラブ	平成28年2月1日	20名
危険物安全協会		
白老危険物安全協会	昭和51年4月15日	73事業所

2 白老町の概要

(1) 白老町の位置



白老とは、アイヌ語で「虻の多い所」という意味の言葉「シラウオイ」からきたと言われていません。

当町は、北海道の南西部に位置し、東隣に苫小牧市、西隣に登別市が接し、北海道の表玄関である新千歳空港からは、道央自動車道を利用すると30分程度のアクセス環境に恵まれるとともに、南東は洋々たる太平洋、北西にはホロホロ山をはじめとする壮大な山岳地帯が広がり夏は涼しく、冬は雪の少ない気候と、ポロト湖、インクラの滝など自然環境に恵まれた暮らしやすい町です。

平成7年には地方港湾白老港商港区が供用開始され、地域産業の流通拠点として地元企業の原材料移入、首都圏需要に対応した砂の移出など、地域開発の一翼を担う重要な役割を果たしています。平成10年には、念願の白老町と伊達市大滝区を結ぶ主要道道白老・大滝線（四季彩街道）が開通、太平洋と日本海を結ぶ物流拠点として自然を生かした観光や文化交流などに大きな期待が寄せられており、2020年からは通年通行が可能となりました。

また、当町は「食材王国しらおい」として黒毛和牛の白老牛、虎杖浜ブランドで全国的に有名なたらこ、北海道有数の生産量を誇る椎茸や卵など、北海道の美食の宝庫です。

2020年にはアイヌ文化復興の拠点となる「民族共生象徴空間（ウポポイ）」が開設され、国立アイヌ民族博物館・国立民族共生公園が設置されました。

位 置		広 表		面 積
北 緯	東 経	東 西	南 北	
42° 42′ 59″	141° 05′ 03″	28.0 km	26.4 km	425.64 km ²

(2) 町内地区別の人口と世帯数

(令和 5年 4月 1日 現在)

区 分	計	男	女	世 帯 数
社 台	727	365	362	438
白 老	7,036	3,395	3,641	4,024
森 野	1	1	0	1
石 山	946	459	487	578
萩 野	2,139	1,030	1,109	1,126
北吉原	1,686	772	914	1,014
竹 浦	1,616	763	853	1,027
虎杖浜	1,274	595	679	721
合 計	15,425	7,380	8,045	8,929

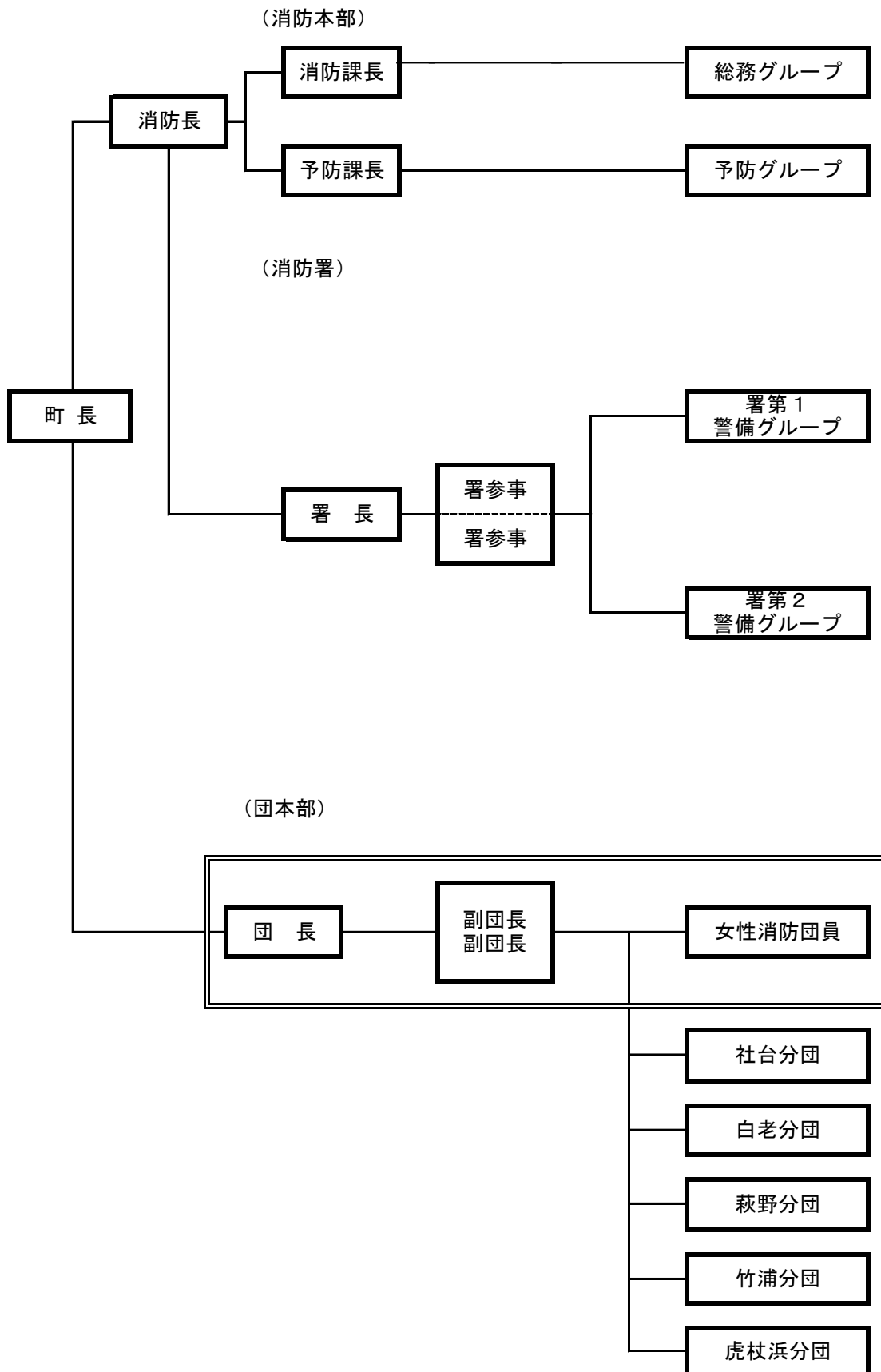
(3) 消防装備と人口等の比較

(令和 5年 4月 1日 現在)

消防吏員1人に対して			消防団員1人に対して			消防車両1台に対して		
面積	世帯	人口	面積	世帯	人口	面積	世帯	人口
(km ²)	(戸)	(人)	(km ²)	(戸)	(人)	(km ²)	(戸)	(人)
8.2	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	26.6	0.0	0.0
吏員	52 人		団員	118 人		消防車両	16 台	

3 消防組織と現有力

(1) 消防組織図(グループ制)



(2) 職員配置状況

区 分	総 員	司令長	司 令		司令補	士 長	消防士	再任用
			課長職	主幹職				
総 数	52	1	5	6	9	12	17	2

()は兼務者

【消防本部】								
消 防 長	1	1						
【消防課】								
消防課長	1		1					
総務G	5 (4)			1	2 (2)	2 (2)		
【予防課】								
予防課長	1		1					
予防G	4 (2)			1	1	1 (1)	1 (1)	
役場併任(主査)	1				1			
本 部 計	13 (6)	1	2	2	4 (2)	3 (3)	1 (1)	

【消防署】								
署 長	1		1					
参 事	2		2					
署第1	20 (3)			2	4 (1)	6 (2)	7	1
署第2	19 (3)			2	3 (1)	6 (1)	7 (1)	1
新採用者	3						3	
署 計	45 (6)		3	4	7 (2)	12 (3)	17 (1)	2

(3) 職員勤続年数・年齢調

区 分	計	司令長	司 令	司令補	士 長	消防士	再任用
総 数	52	1	11	9	12	17	2
勤続年数別							
1 年 未 満	5					3	2
1 ～ 5 年 未 満	11				2	9	
5 ～ 10 年 未 満	10				5	5	
10 ～ 15 年 未 満	4			1	3		
15 ～ 20 年 未 満	5			3	2		
20 ～ 25 年 未 満	1			1			
25 ～ 30 年 未 満	10		6	4			
30 ～ 35 年 未 満	2	1	1				
35 年 以 上	4		4				
平均勤続年数	14	34	32	22	9	3	1
年 齢 別							
18才 ～ 20才	3					3	
21才 ～ 25才	11					11	
26才 ～ 30才	9				6	3	
31才 ～ 35才	7			2	5		
36才 ～ 40才	3			2	1		
41才 ～ 45才	3		1	2			
46才 ～ 50才	8		5	3			
51才 ～ 55才	2		2				
56才 ～ 60才	4	1	3				
61才 ～ 65才	2						2
平均年齢	35	59	51	42	31	24	60

(4) 団員階級別・就業別数

()は女性団員

区 分	計	団 本 部	社 台 分 団	白 老 分 団	萩 野 分 団	竹 浦 分 団	虎杖浜 分 団
階 級 別							
団 長	1	1					
副 団 長	2	2					
分 団 長	5		1	1	1	1	1
副分団長	5		1	1	1	1	1
部 長	20 (2)	2 (2)	3	4	4	3	4
班 長	38 (2)	2 (2)	6	8	7	7	8
団 員	47 (4)	4 (4)	9	9	7	7	11
計	118 (8)	11 (8)	20	23	20	19	25
入 団	5 (0)			1	1	3	
退 団	8 ()	1 ()		1	1	5	
就 業 別							
自営業者	26	2	7	5	1	3	8
被 用 者	73 (8)	9 (8)	12	16	16	12	8
家族従業者	18		1	2	3	3	9
そ の 他	1					1	
計	118 (8)	11 (8)	20	23	20	19	25

(5) 団員勤続年数・年齢調

()は女性団員

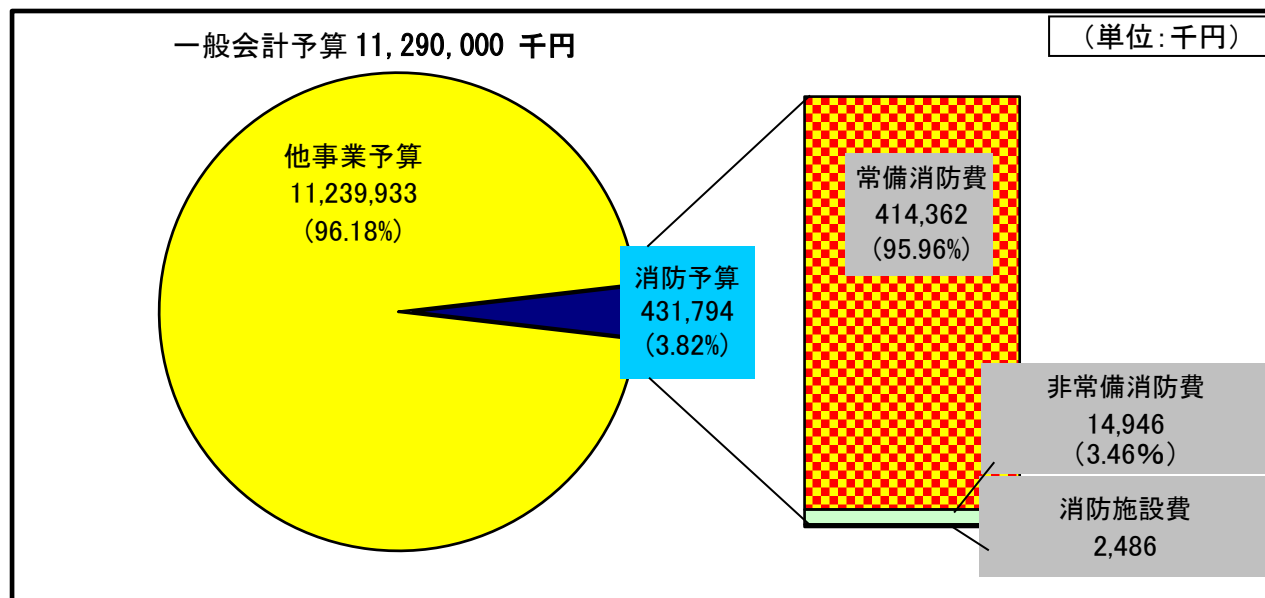
区 分	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
総 数	118 (8)	1	2	5	5	20 (2)	38 (2)	47 (4)
勤続年数別								
5 年 未 満	22 (2)							22 (2)
5～10年 未 満	22 (1)						6	16 (1)
10～15年 未 満	12 (1)					2	5	5 (1)
15～20年 未 満	21 (2)					3	15 (2)	3
20～25年 未 満	21 (1)		1	1	1	7 (1)	10	1
25～30年 未 満	9 (1)			1	1	6 (1)	1	
30～35年 未 満	3					2	1	
35 年 以 上	8	1	1	3	3			
平均勤続年数	28 (16)	48	36	33	34	23 (24)	17 (18)	6 (7)
年 齢 別	118 (8)							
20才 未 満								
20才～25才	7							7
26才～30才	7							7
31才～35才	8					1	1	6
36才～40才	13 (1)					1	5	7 (1)
41才～45才	22 (1)					1	8	13 (1)
46才～50才	13 (2)					2 (1)	7	4 (1)
51才～54才	20 (2)			1	1	7	9 (1)	2 (1)
55才 以 上	28 (2)	1	2	4	4	8 (1)	8 (1)	1
平均年齢	46 (50)	68	64	58	60	53 (54)	49 (57)	37 (46)

4 消防庁舎等の現況

消防本部・消防署・消防団本部庁舎 (国土交通省北海道開発局 樽前山火山対策防災拠点施設併設)		H19築
所在地	石山20番地の24	
構造等	鉄筋コンクリート造 地上2階、地下1階 延2,715.5㎡ (消防用途面積 1,634.5㎡)	
消防署・西部出張所庁舎		S55築
所在地	虎杖浜13番地の1	
構造等	鉄筋コンクリート造 平屋建 延282㎡	
消防団・社台分団詰所・車庫		S41築
所在地	社台58番地の18	
構造等	ブロック造 平屋建 延51.87㎡	
消防団・白老分団詰所・車庫(役場倉庫・白老町合同会館併用)		S41築
所在地	高砂町1丁目1番50号	
構造等	鉄骨コンクリート一部ブロック造 2階建 延684.36㎡ (分団用途面積 104.5㎡)	
消防団・萩野分団詰所・車庫		H11築
所在地	北吉原86番地	
構造等	木造防火サイディング造 平屋建 延66.248㎡	
消防団・竹浦分団詰所・車庫		S44築
所在地	竹浦616番地	
構造等	ブロック造 平屋建 延52.11㎡	
消防団・虎杖浜分団詰所・車庫		S52・R2築
所在地	虎杖浜74番地の11	
構造等(詰所)	ブロック造 平屋建 延60.48㎡ (S52築)	
構造等(車庫)	木造 平屋建 延34.78㎡ (R 2築)	
虎杖浜・待機宿舎 A・B (1棟2戸・2棟)		S56築
所在地	虎杖浜14番地	
構造等	木造防火サイディング造 平屋建 延124.74㎡ × 2棟	

5 消防予算

(1) 令和5年度一般会計予算と消防費



(2) 過去3年間の消防予算内訳

(単位:千円)

年 度	一般会計予算	比率	合 計	常 備 消防費	非常備 消防費	消 防 施設費
令和2年度 当 初 予 算 額	10,430,000	5.02	523,782	428,741	24,264	70,777
令和2年度 決 算 額	13,088,043	4.11	537,490	438,438	20,238	78,814
令和3年度 当 初 予 算 額	10,320,000	4.46	459,955	431,191	17,620	11,144
令和3年度 決 算 額	12,652,692	3.70	468,581	429,018	13,818	25,745
令和4年度 当 初 予 算 額	10,700,000	4.40	470,874	423,822	15,227	31,825

※ 常備消防費内には、給与費を含む

予 防 関 係

1 防火対象物の状況

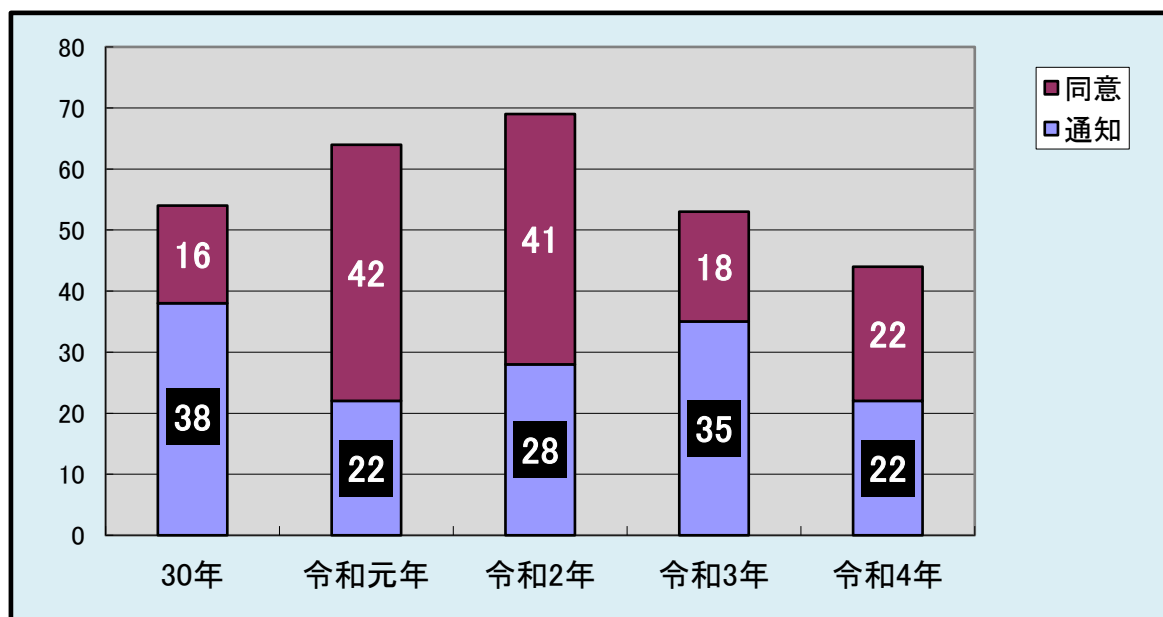
区 分	防火対象物						立入検査実施件数	防火管理者				防火対象物定期点検施設	
	対象物数	地上5階未満	地上5階以上	対前年比		甲種選任必要対象物数		同選任対象物数	乙種選任必要対象物数	同選任対象物数			
				前年数	増減								
1	イ	劇場・映画館											
	ロ	公会堂・集会場	33	33		30	3	8	19	19	13	13	
2	イ	カフェ等											
	ロ	遊技場・ダンスホール等	2	2		1	1		1	1			
3	ロ	飲食店	21	21		22	▲1	27	12	11	16	16	
4		百貨店・マーケット等	26	26		27	▲1	11	11	9	12	10	3
5	イ	旅館・ホテル等	40	40		41	▲1	12	14	13	1	1	4
	ロ	寄宿舎・共同住宅	157	155	2	157		5	6	6			
6	イ	病院・診療所等	5	5		5			2	2			1
	ロ	短期入所施設・養護老人ホーム等	27	27		27			8	8			1
	ハ	老人デイサービス・保育所等	23	23		23		1	12	12	2	2	1
	ニ	幼稚園等											
7		学校(小・中・高・専門学校)	17	17		17		1	13	13			
8		図書館・博物館等	4	4		4		1	1	1	1	1	
9	イ	公共浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場	1	1			1						
9	ロ	9項イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	5	5		6	▲1	1	2	2	1	1	
10		停車場等											
11		神社・寺院等	7	7		7			7	6			
12	イ	工場・作業場	136	127	9	141	▲5	34	9	7			
13	イ	駐車場・車庫等	11	11		11		1					
	ロ	飛行機の格納庫	1	1		1							
14		倉庫	157	157		157		29					
15		上記以外の事業所	251	251		246	5	68	18	18	1	1	
16	イ	複合用途防火対象物	61	60	1	58	3	35	25	24	3	3	1
	ロ		38	38		38		6	5	5			
計			1,023	1,011	12	1,019	4	240	165	157	50	48	11

2 建築同意

(1) 月別事務処理状況

区分	計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
同意	22	4	3		2	2	3	4				1	3
不同意													
工事種別													
新築	15	3			2	1	2	3				1	3
増築	6	1	2			1	1	1					
増改築	1		1										
用途変更													
工作物													
仮設													
その他													
通知文 (住宅等)	22		3	2	1	2	3	1	1		6	3	
合計	44	4	6	2	3	4	6	5	1		6	4	3

(2) 過去5年間事務処理状況

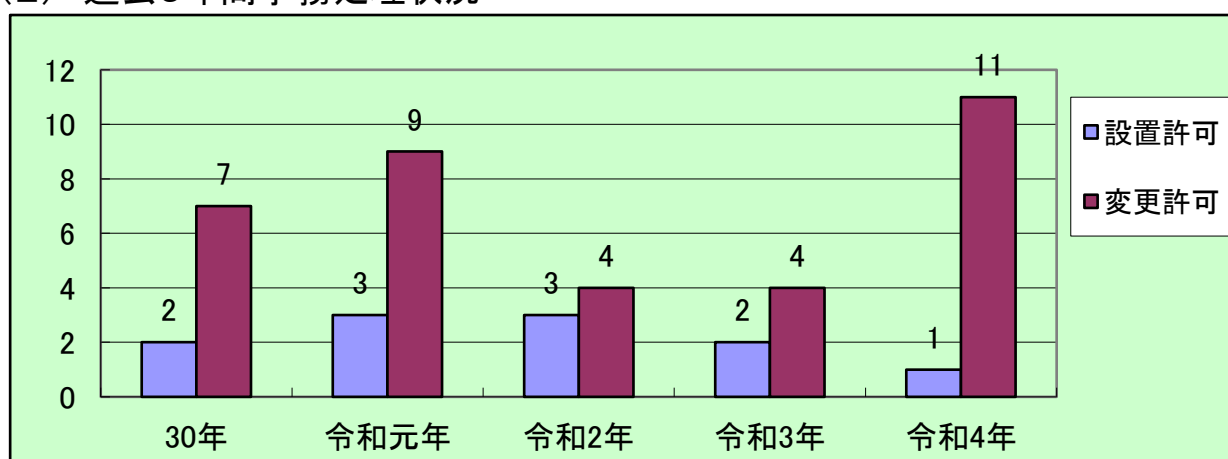


3 危険物施設

(1) 危険物製造所等設置及び事務処理状況、立入検査件数

区 分	許可施設数	許可・検査処置件数										立入検査件数
		設 置					変 更					
		許 可	変 更	完 成	未 完 成	取 下 げ	許 可	変 更	完 成	未 完 成	取 下 げ	
製 造 所	3											3
貯 蔵 所	120	1		1								84
屋外タンク貯蔵所	35											32
移動タンク貯蔵所	30	1		1								26
地下タンク貯蔵所	49											21
屋内タンク貯蔵所												
簡易タンク貯蔵所												
屋 内 貯 蔵 所	3											4
屋 外 貯 蔵 所	3											1
取 扱 所	60						11		10			32
給油取扱所	32						11		10			16
一般取扱所	28											16
第一種販売取扱所												
計	183	1		1			11		10			119

(2) 過去5年間事務処理状況



(3) 危険物製造所等数量・類別状況(完成検査済証交付施設)

区 分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所			
			小 計	屋外タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	屋内貯蔵所	屋外貯蔵所	小 計	給油取扱所	一般取扱所	第一種販売取扱所
合 計	183	3	120	35	30	49			3	3	60	32	28	
数 量 別	71		61	3	27	28			2	1	10	2	8	
5倍以下	41	3	25	11	1	12				1	13	4	9	
5倍を超え 10倍以下	46		25	15	2	6			1	1	21	12	9	
10倍を超え 50倍以下	14		7	4		3					7	7		
50倍を超え 100倍以下	1		1	1										
100倍を超え 150倍以下	6										6	6		
150倍を超え 200倍以下	4		1	1							3	1	2	
200倍を 超えるもの														
類 別														
第 1 類	1										1		1	
第 2 類														
第 3 類														
第 4 類	181	3	119	34	30	49			3	3	59	32	27	
第 5 類														
第 6 類	1		1	1										
混 載														

4 火災予防

(1) 法令による届出状況

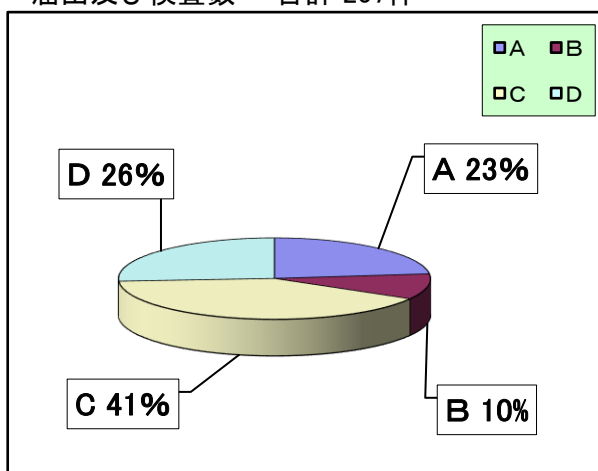
条 項	内 容	件 数
法第8条	消防計画の届出	66
法第8条第2項	防火管理者選(解)任届出	45
法第9条の3	液化石油ガス等貯蔵取扱い届出	7
法第17条の3の3	消防用設備等点検結果報告	729

(2) 消防用設備等設置届出 (法第17条の3の2)

47		消防用設備	届出及び検査	%
<p>■ A-消火器 ■ B-屋内消火栓設備 ■ C-スプリンクラー設備 ■ D-粉末消火設備 ■ E-自動火災報知設備 ■ F-火災通報装置 ■ G-非常警報設備 ■ H-避難器具 ■ I-誘導灯 ■ J-誘導標識 ■ K-パッケージ型消火設備 ■ L-屋外消火栓設備 ■ M-特定小規模施設用自動火災報知設備</p>		A-消火器	15	31%
		B-屋内消火栓設備	1	2%
		C-スプリンクラー設備		0%
		D-粉末消火設備		0%
		E-自動火災報知設備	12	26%
		F-火災通報装置	4	9%
		G-非常警報設備	2	4%
		H-避難器具		0%
		I-誘導灯	6	13%
		J-誘導標識		0%
		K-パッケージ型消火設備		0%
		L-屋外消火栓設備		0%
		M-特定小規模施設用自動火災報知設備	7	15%
		合 計	47	

(3) 火災予防条例に基づく届出

届出及び検査数 合計 207件



	届出及び検査数	%
A-第50条届出	48	23%
B-第51条届出	21	10%
C-第52条届出	84	41%
D-第53条届出	54	26%
合計	207	100%

第50条 → 防火対象物使用開始届出

第51条 → ボイラー・変電設備届出

第52条 → 道路工事届出、火災とまぎらわしい行為届出、水道断(減)水工事届出、煙火打上げ届出、催し物開催届出

第53条 → 少量危険物貯蔵取扱い届出、指定可燃物貯蔵届出

(4) 広報活動状況

区 分	回 数
各種消防訓練、避難訓練	114 回
巡回広報(車両等による)、火災予防運動、歳末警戒	40 回
町広報誌、新聞等	6 回
看板・チラシ・ポスター等	445 枚

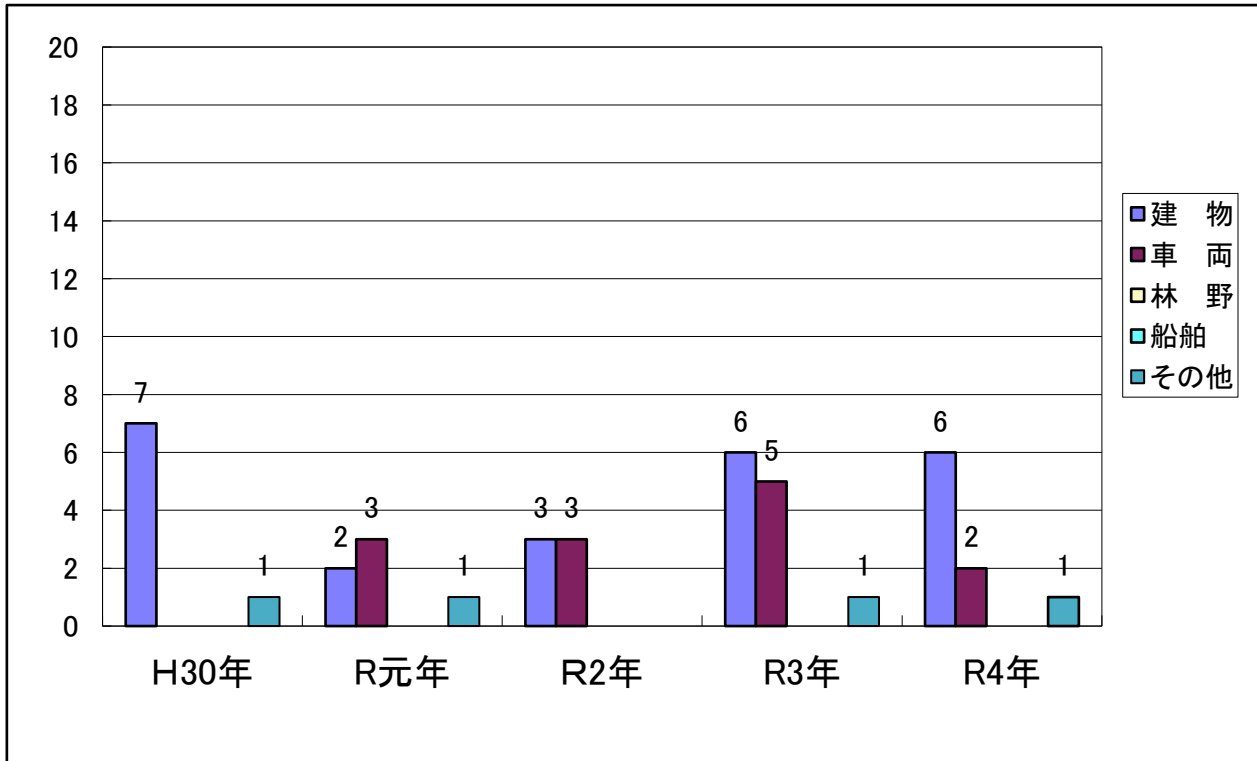
5 火災

(1) 火災概要

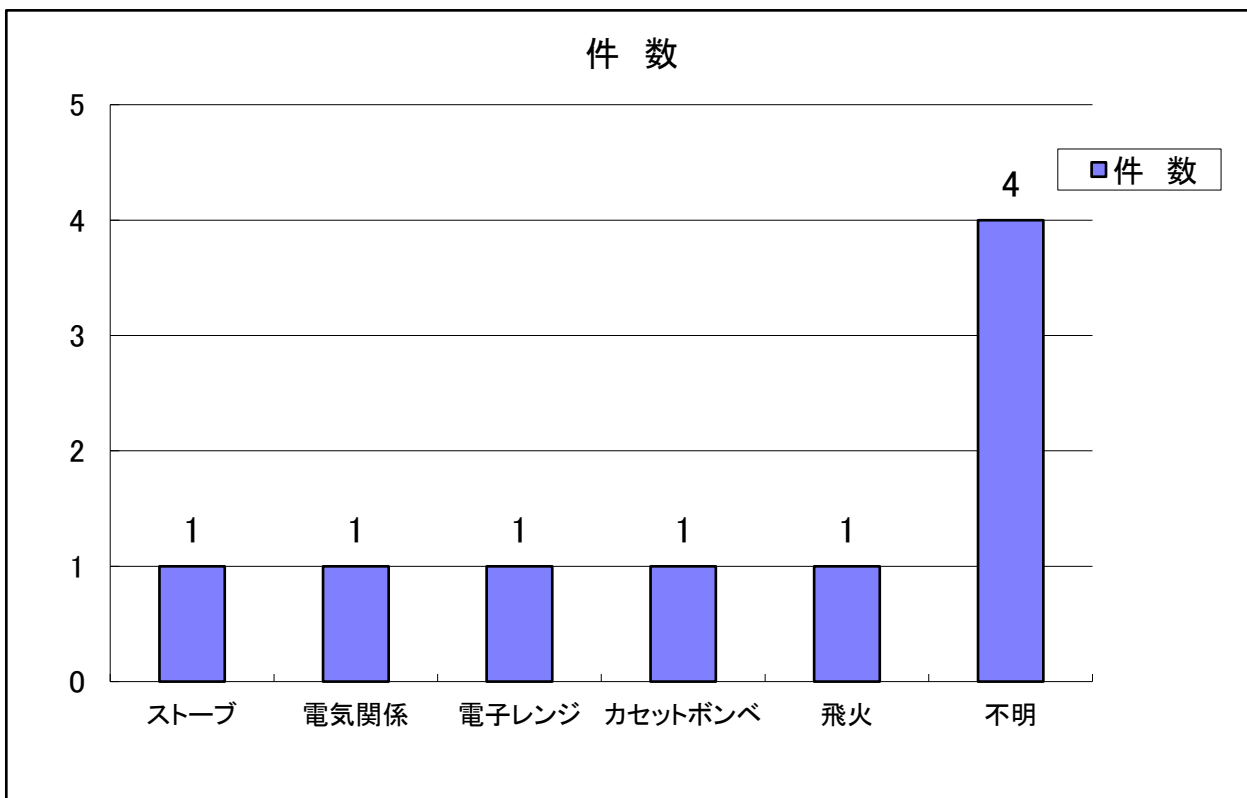
発 生 順	発 生		出 火 場 所	用 途	出 火 原 因	焼 失 区 分								焼 損 棟 数	焼 損 面 積 (m ²)	罹 災 世 帯 数	罹 災 人 員	損 害 額 (千円)	死 傷 者									
	月	日				火 元				類 焼									全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	者	負 傷 者
						全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や															
1	1月29日	1時25分	緑丘	建物	石油ストーブの輻射熱によりソファから出火。	○									○	○			4	96	4	7	3,740		1			
2	2月22日	16時42分	栄町	建物	ハンディ掃除機の充電中に配線コードから出火。原因については不明。	○													1	12	2	6	115					
3	4月12日	11時50分	字社台	その他	鉄くず集積中に爆発音とともに出火。集積中のカセットボンベに残っていたガスに引火し、地盤面に付着していた残油に着火。														1	45			0					
4	10月9日	17時56分	字社台	車両	走行中に鹿と衝突後、フロントランプより出火。鹿との衝突で、フロントランプ付近が損傷したことにより、雨水が浸入して間接的に短絡。																		60					
5	10月16日	19時00分	大町	建物	電子レンジで生のカボチャを加熱し過ぎて出火。															1	1	1	2	12				
6	10月27日	10時00分	字石山	建物	焼却炉でゴミ焼きを行っていたところ、剪定し集積されたブドウの木に火の粉が飛火し延焼。	○													2	32	1	2	0					
7	12月12日	17時15分	東町	建物	車庫兼物置から出火、家屋に類焼。原因について不明。	○													2	30	2	2	1,829					
8	12月14日	18時台	字虎杖浜	建物	外出中に住宅居間より出火。原因について不明。	○													2	209	2	4	5,061					
9	12月31日	4時48分	東町	車両	停車中の車両から出火。原因については不明																		459					

(2) 過去5年間火災発生状況

火災種別発生件数



原因発生件数（令和4年）



警 防 関 係

1 出動状況(火災・救助・警防活動)

(1) 火災出動状況

	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	航 空 機	そ の 他
出動件数	9	6	0	2	0	0	1
出動車両	36	24	0	7	0	0	5
出動人員	96	64	0	18	0	0	14

(2) 救助出動状況

	合 計	火 災	交 通	水 難	自 然 災 害	機 械	建 物	酸ガ ス 欠・	破 裂	そ の 他
出動件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
出動車両	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
出動人員	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8

(3) 警防業務出動状況

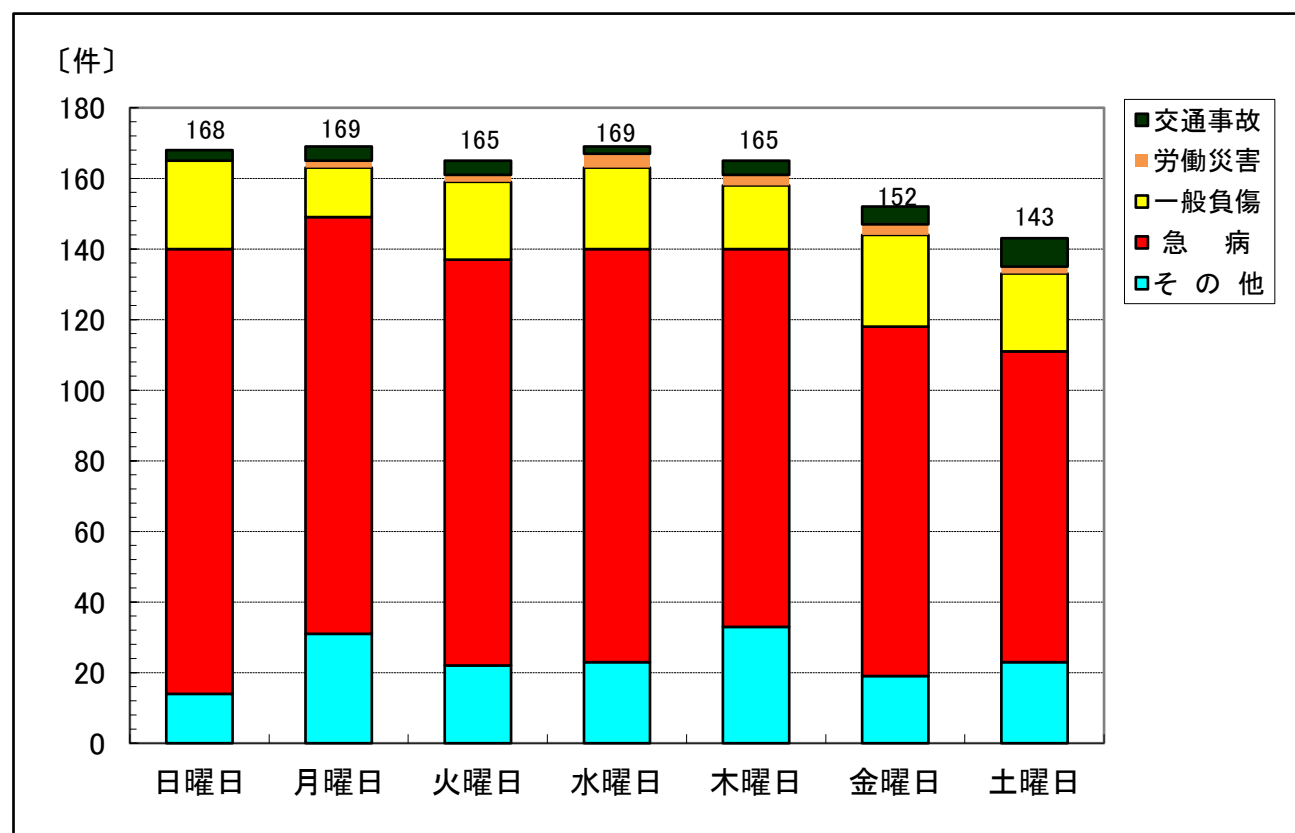
	合 計	火 災 検 索	自 然 災 害	危 険 排 除	支 援 活 動	地 震	そ の 他
出動件数	94	3	2	0	50	0	39
出動車両	118	4	5	0	58	0	51
出動人員	399	10	11	0	133	0	245

2 救急出動

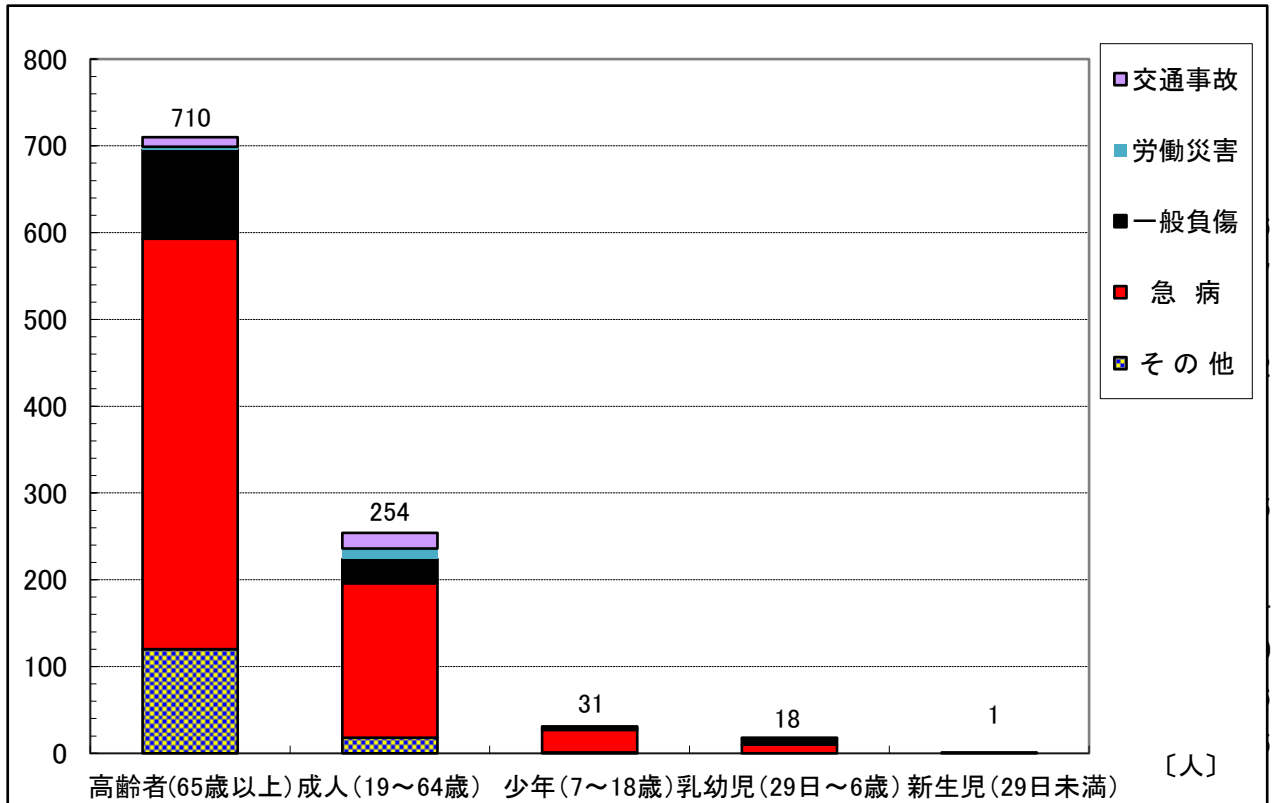
(1) 月別出動状況

区 分		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	搬 送 比 率 (%)
合 計	出場件数	1,131	104	72	90	81	89	85	99	92	98	97	125	99	
	搬送人員	1,014	87	61	82	72	81	78	89	86	89	88	110	91	
交通事故	出場件数	30	2	0	1	4	3	1	3	4	3	2	2	5	2.7%
	搬送人員	32	3	0	1	4	4	1	3	6	2	1	2	5	3.2%
労働災害	出場件数	15	1	0	0	1	2	1	2	2	1	1	3	1	1.3%
	搬送人員	14	1	0	0	1	2	0	2	2	1	1	3	1	1.4%
一般負傷	出場件数	151	13	9	11	7	10	11	12	12	13	19	21	13	13.4%
	搬送人員	141	13	9	9	7	10	10	11	12	11	18	18	13	13.9%
急 病	出場件数	770	67	57	62	59	64	62	65	64	64	60	80	66	68.1%
	搬送人員	688	53	46	61	50	55	58	57	58	59	56	74	61	67.9%
そ の 他	出場件数	165	21	6	16	10	10	10	17	10	17	15	19	14	14.6%
	搬送人員	139	17	6	11	10	10	9	16	8	16	12	13	11	13.7%

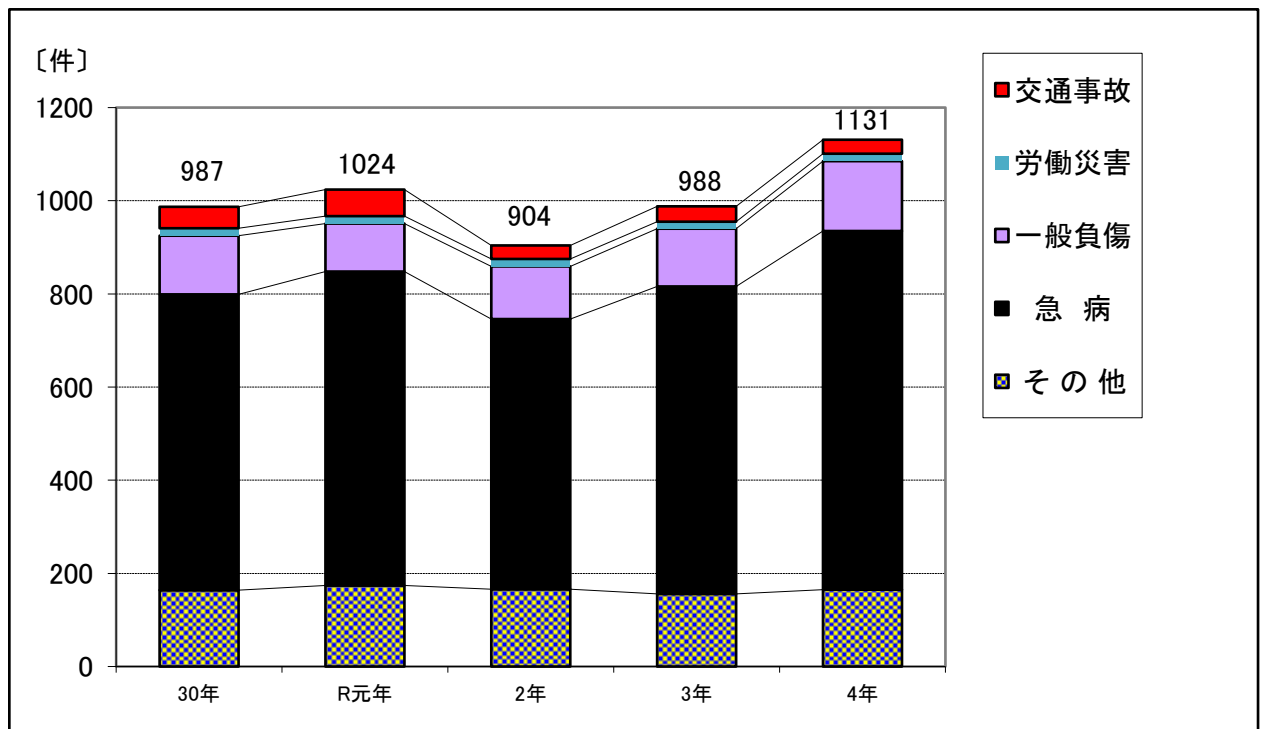
(2) 曜日別救急出動件数



(3) 年齢別救急搬送人員



(4) 救急出動件数の推移（過去5年間）



3 消防団

年間出動状況

区 分	合 計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
火 災	件数	3	1										2	
	人員	23	3										20	
風水害 災 害	件数	0												
	人員	0												
演 習 訓 練	件数	42		3	4	2	5	4	4	7	3	4	5	1
	人員	259		10	22	29	40	30	19	27	17	23	36	6
広 報 指 導	件数	30				13	1		1			15		
	人員	131				53	4		10			64		
警 防 調 査	件数	0												
	人員	0												
原 因 調 査	件数	0												
	人員	0												
特 別 警 戒	件数	16											16	
	人員	98											98	
捜 索 活 動	件数	3					2					1		
	人員	9					7					2		
予 防 査 察	件数	0												
	人員	0												
その他	件数	13	1	2	1	1	4		1	2		1		
	人員	121	60	11	6	8	13		8	12		3		
合 計	件数	107	2	5	5	16	12	4	6	9	3	21	5	19
	人員	641	63	21	28	90	64	30	37	39	17	92	36	124

4 消防水利の現況

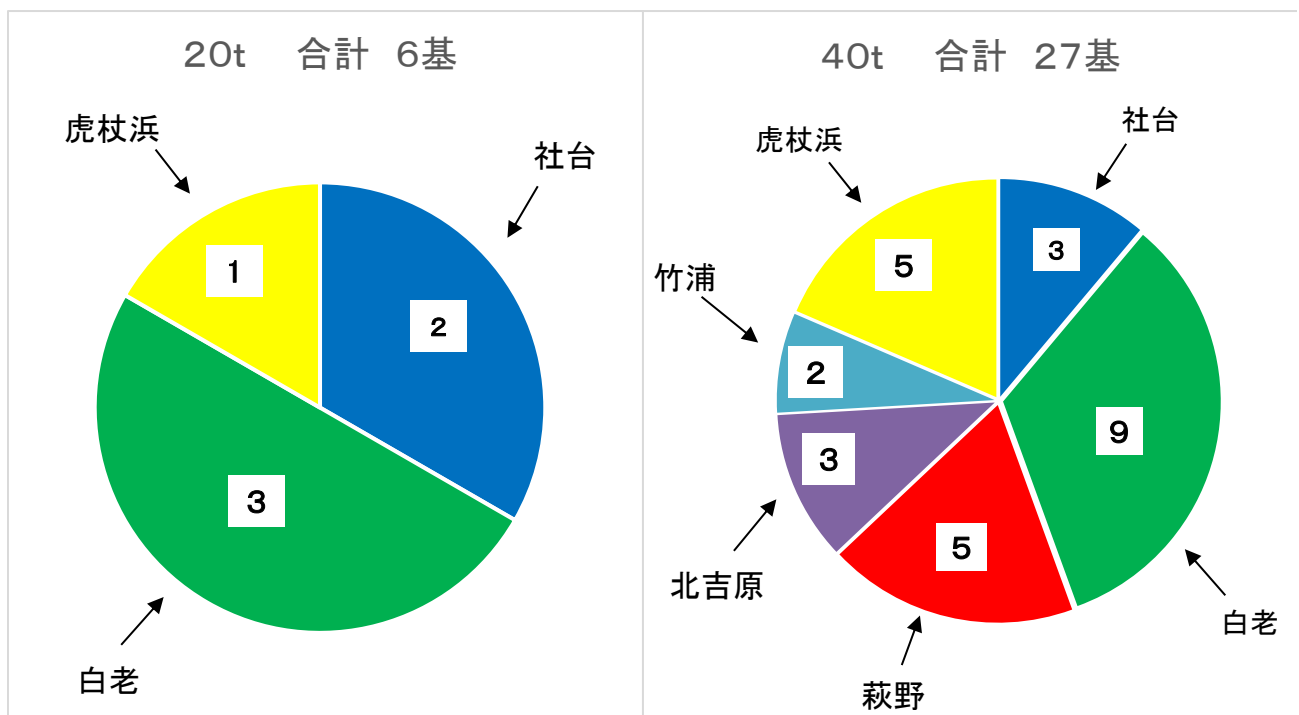
(1) 地区別水利施設数

区分	消 火 栓			貯水槽	河 川	その他	合 計
	公 設	私 設	計				
社 台	33		33	5			38
白 老	130		130	12	2		144
石 山	72		72			1	73
萩 野	59		59	5			64
北吉原	68	8	76	3			79
竹 浦	69		69	2			71
虎杖浜	49		49	6		1	56
合 計	480	8	488	33	2	2	525

※ 「河川」については、取水可能箇所を記載

※ 「その他」については、港湾及び湖

(2) 容量別貯水槽数 水槽数 合計 33基



(3) 配管口径別消火栓

区分 mm	社台		白老		石山		萩野		北吉原		竹浦		虎杖浜		計
	公設	私設	公設	私設	公設	私設	公設	私設	公設	私設	公設	私設	公設	私設	
75	1		24		9		24		27		27		11		123
100	18		60		34		17		29	8	24		16		206
125															0
150	14		40		24		8		10		7		5		108
200					1		7		2		11		13		34
250					1		3						4		8
300			2		3										5
350															0
400			4												4
計	33		130		72		59		68	8	69		49		488
合計	33		130		72		59		76		69		49		

機械・通信設備関係

1 現有消防車両一覧

水槽付ポンプ車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
消防1号車	消防署	ヒノレンジャー	5,120	2.0t A-2	R3.3.17	2	石油交付金
消防2号車	出張所	ヒノレンジャー	7,960	2.0t A-1	H9.8.28	25	損保協会寄贈
消防3号車	消防署	ヒノレンジャー	7,410	1.8t A-2	H5.3.5	30	石油交付金
消防6号車	消防署	ヒノプロファイア	8,860	8.0t A-2	H27.12.17	7	石油交付金

普通ポンプ車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
消防5号車	消防署	ヒノレンジャー 普通P	7,960	A-1	H13.3.21	22	産業再配置

高規格救急自動車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
救急1号車	消防署	ニッサン・パラメディック	2,480	高規格	R5.3.15	0	防衛省交付金
救急2号車	消防署	ニッサン・パラメディック	3,490	高規格	H26.11.21	8	防衛省交付金
救急3号車	出張所	トヨタ・ハイメディック	2,690	高規格	H31.2.8	4	防衛省交付金

救助工作車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
消防8号車	消防署	ニッサン・コントロール	6,920	救助工作	H7.3.20	28	石油交付金

指揮車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
指揮1号車	消防署	ニッサン・サファリ	4,160	現場指揮	H11.1.21	24	石油交付金

広報車、支援車及び査察車

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
支援1号車	消防署	トヨタ・ハイエース	2,700	人員搬送	R4.1.7	1	コロナ交付金
原調1号車	消防本部	ニッサン・ホーミー	2,950	火災調査	H16.2.23	19	石油交付金
査察1号車	消防本部	スバル・レガシー	1,990	防災指導	H19.2.20	16	日本消防協会還元事業
査察2号車	消防本部	ダイハツ・ムーブ	650	防災指導	H21.9.24	13	白老ライオンズクラブ寄贈

消防団車(小型ポンプ付積載車)

車名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
社台分団車	社台	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H15.3.5	20	石油交付金
白老分団車	白老	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H19.2.22	16	石油交付金
萩野分団車	萩野	ヒノデュトロ・シバウラ	4,610	B-2	H13.3.21	22	産業再配置
竹浦分団車	竹浦	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H18.2.23	17	石油交付金
虎杖浜分団車	虎杖浜	ニッサン・アトラス・シバウラTF	3,150	B-2	H14.3.13	21	石油交付金

※小型ポンプ

ポンプ名	配置場所	車種	排気量	規格	購入年月日	年数	備考
署1号	消防署	シバウラTF35	436	B-3	S48.3.30	50	石油交付金
署2号	萩野分団	シバウラTF35	436	B-3	S56.11.27	41	石油交付金
署3号	消防署	シバウラTF35	436	B-3	S57.12.24	40	石油交付金

2 特殊資機材一覧

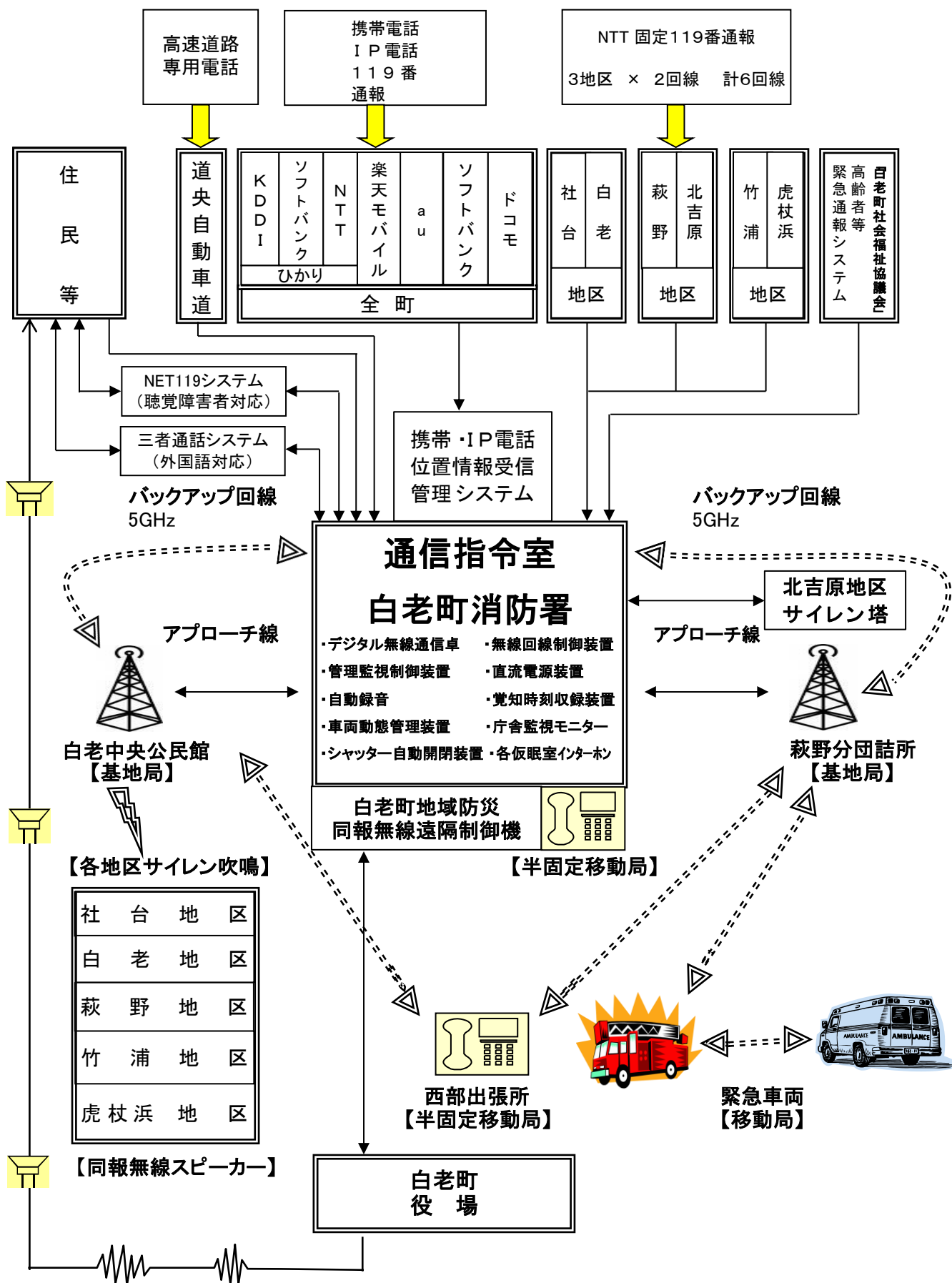
品名	数量	備考	
一般用救助器具	鋼製三連梯子	1 AZ-780	
	チタン製三連梯子	2 KHA-87	
	鋼製かぎ付梯子	1 KHFL-36	
	チタン製かぎ付梯子	2 KHFL-CT31	
	救助用縛帯	2 ペツル ピタゴール	
重量物排除器具	油圧ポンプ	2 WEBERコンパクトパワーユニット、ホルマトロフトポンプ	
	スプレッダー	1 WEBER(SP50BS)	
	ラムシリンダー	1 WEBER(RZT2-1500)	
	マット型空気ジャッキ	5 WEBER(25.2t×3、10.1t×1、2.7t×1)	
	可搬式ウインチ	2 テルホール TU-16・T-7	
切断用器具	カッター	2 WEBER(RSU180PLUS)、ホルマトロペダル用	
	空気切断器	1 エアーツール Aセット	
	ガス溶断器	1 ニューチヨパック	
	エンジンカッター	3 スチールTS360、TS400、TS410	
	チェーンソー	2 スチールMS210C、361	
	コンビツール	1 WEBER SPS360 MK2 E-FORCE3	
破壊用器具	削岩機	1 マルゼンMA-180	
呼吸保護用器具	送排風機	1 サンキポータブルファン(防爆型)	
	空気呼吸器	15 ドレーゲル(15基)	
	酸素呼吸器一式	2 カワサキ 10号(予備ボンベ2)	
検知・測定用器具	複合型ガス検知器	2 XP-302M-A、リケンGX-2009	
	放射線測定機器	10	富士電機(株)・日立アロカメディカル(株) 放射線個人線量計
		3	ガンマ線及びエックス線用線量率計
		1	表面汚染検査計
	レーザー距離計	1 nikonレーザー-500G	
	活線接近警報器	14 HX-6型	
	携帯警報器	9 スーパーパスII	
隊員用保護用器具	耐熱服一式	2 エミュー EM 6151	
	化学防護服(陽圧式以外)	3 密閉型YS型	
その他の救助用器具	発電機	8 ホンダEM 2300、YAMAHA EF7H、HONDA EU91×3	
	投光器一式	7 FLASH BOY LED II、LEX-140 他	
	LED警告灯	1 シンクロス	
	バルーンライト	1 LB030CS-1-F	
	発電機付投光器	1 RD900LED	
	ソフトランディング	1 スーパーソフトランディングSSL	
山岳救助用器具	バスケット担架	3 スケッドストレッチャー×1、パーティカルストレッチャー×1	
高度救助隊用器具	熱画像直視装置	1 FLIR K55	

※消防法に基づき制定された救助資機材のみ掲示しています。

3 通信系統

本部・署
 (代) 0144-83-1119 加入電話
 0144-83-1190 F A X
 0144-83-9119 火災案内

出張所
 0144-87-4202 加入電話



4 無線電話配置状況

デジタル（活動・統制波）

種 別 \ 所 属 別	出 力	計	白老中央 公民館	萩野分 所 団 結	消防本部	消防署	出張所	消防団	各地区 サイレン
基地局	10W	2	1	1					
固定局	500 μ W 320mW 630mW 5 W 10 W	6	1						5
半固定移動局	5W	2			1		1		
移動局(車載型)	5W	20			1	12	2	5	
移動局(携帯型)	2W	10				10			
無線局数合計		40	2	1	2	22	3	5	5

※ 固定局無線出力内訳

10W 白老中央公民館、630mW 社台、500 μ W 白老、320mW 萩野、5W 竹浦・虎杖浜分団



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK

民族共生象徴空間

白老町ポロト湖畔に民族共生象徴空間が誕生！

「ウポポイ」はアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」

アイヌの尊厳を尊重し、アイヌの歴史・文化等を復興するナショナルセンターとして、北海道白老町に「民族共生象徴空間」が整備されました。

民族共生象徴空間は、国立アイヌ民族博物館と国立民族共生公園等で構成され、アイヌの歴史や文化等に関する幅広い理解の促進を図り、豊かな自然を活用した憩いの場の形成を通じて、将来に向けて新たなアイヌ文化の創造と発展に繋げるための空間となります。

ACCESS

空路		
●東京→札幌(新千歳空港)	●大阪→札幌(新千歳空港)	
約1時間35分 1H52便	約2時間10分 1H8便	

各都市からの「車」と「JR」		
札幌→白老 高速道路で約60分 JR特急で約60分	千歳→白老 高速道路で約40分 JR特急で約30分	苫小牧→白老 高速道路で約20分 JR特急で約15分
室蘭→白老 高速道路で約30分 JR特急で約30分	函館→白老 高速道路で約4時間 JR特急で約2時間30分	伊達市大滝区→白老 一般道路で約40分

白老町役場 〒059-0995 北海道白老郡白老町大町1丁目1番1号 [しらおい](#) [検索](#)

[アイヌカララ](#)